

質問案を提出した。

一、國家は醫師及び法律家を公衆が尊敬する如く(イ)新聞紙界に入らんとするもの、資格を定めて訓練の無き放縱なる人物を驅逐し(ロ)新聞紙に關する不平を處理する監督局を設けて、新聞記者の職業的特質を益々發揮せしむるやう爲し能はざるべきか。

二、新聞紙界は新聞記者たらんものを囓味して、自ら保護せんとせざるか。

この質問案は同會議に於て大に議論の中心となり、第一項は出版の自由の見地から甚だ攻撃されたのであつたが、オハラ副知事は更にイリノイス州會にも新聞記者免許法案ライセンスビルを提出した、氏は自分の新聞記者としての經驗から辯護士及醫師の如く新聞記者も職業として免許状の必要なことを認め、州新聞局を設立して新聞記者を職業とするもの、免許状の發行及取消を爲さしむることの必要を唱へた、免許法案の内容は

一、出願者は法定年齢に達したるものに限る。

一、中等教育又は之と同等の課程を修了せるものとす。

一、一定の新聞専門學校を二個年修了し又は之と同一の期間見習記者として新聞社に在勤せるものとす。

一、州新聞局が品性善良なりと認めし書類を受けし者。

一、州新聞局にて施行する定期試験の作文に合格せる者。

即ち以上の案によれば、免許状の下附を受けんとするものは、先づ法定年齢に達し、ハイスクールの卒業證書、新聞専門學校二個年の修業證書又は新聞社の見習記者としての證明書、及新聞局の善行證明書等を正式に新聞局に提出しなければならぬ、見習記者を使用する新聞社は、その原稿が編輯の手に入る前に必ず免許状を有する新聞記者にその原稿の檢閲を乞はねばならない、かくの如くして二個年の實地經驗をなして、州新聞局の試験を受け、合格したものは

免許新聞記者の資格を得る譯である、次にオハラ副知事の案による、免許状取消の場合は左の如し。

- 一、同業者間にて、彼の重罪犯たることが判定したる時は、自ら免許状の効力を失ふ。
- 二、同業者の陪審官によつて、審理の結果、故意に虚報を掲載し、誹謗の筆を弄し、殊更に記事を着色して、賄賂として金品の贈與を受け、其他瀆職背任、不法の行爲ありと判決せられし場合。

即ち免許状取消の處罰を受くる場合は、故意に虚報を掲げ、或は人身攻撃に虚偽を交へ、或は淫猥の記事を報道したものに課するものである、オハラの説に従へば、新聞紙法は之等の犯罪を處罰するけれども、免許状制度は積極的に新聞記者の無責任な言動を防止するに足ると言ふて居る、オハラのこの提案は州會に於て、憲法に保障した出版の自由を侵害するものなりとて、非常の反對

に遭遇して葬られてしまつたのである。

次に新聞記者の職業的地位を一定し、之を向上せしむる目的を以て一箇の制度の發達したのは、英國の『英國新聞記者會院』“Institute of Journalists of Great Britain”であると思ふ、然し近年は青年新聞記者によつて『新聞記者國民協會』“National Association of Journalists”が組織されて、著しく活動するに至つた。英國新聞記者會院はヴィクトリア女王の勅許状によつて設立せられたもので、會院の目的の概要は

- 一、會院の會員たらんとする候補者の資格は、實際と理論を試験して定め、會院は自ら其試験方法を定める。
- 一、會院は總ての新聞記者を職業とするもの、資格の向上改善に努力す。
- 一、會院は新聞記者の職業に關聯せる諸般の法律及實務を調査す。
- 一、會院は會員たる新聞記者に、職務に必要な事項を調査、蒐集し且つ發

表して参考に供す。

- 一、新聞記者の解職に影響する法案の出現を監視し、必要の場合には新聞記者の利益の爲めに法案の修正に努力す。
- 一、會院は會員間或は會員の就職希望者と新聞記者入用者との間の連絡紹介機關たり。
- 一、會院は會員間の親睦を圖り、新聞記者の職業上の諸問題を討議すべき會議及集會を召集し、新聞記者名簿及會員登録簿を隨時修正且つ發行し、新聞記者に利害關係を有する事件及手續を記録す。
- 一、會院は會員の利用すべき圖書館を設立す。
- 一、會院は新聞記者の専門雜誌の發行を獎勵す。
- 一、會院は老年、疾病、死亡及災禍より生ずる窮乏を共濟す。
- 一、會院は諸般の會議及集會に使用せらるゝ會館を所有す。

一、各方面に互り新聞紙の發達を期し、且つ新聞記者の爲め一定の職業的標準を樹立するに努む。

一、會院は新聞記者及新聞紙を裨益すべき萬般の手續を講ず。

新聞記者會院の設立せられて英國の新聞記者の職業的地位が安固にせられたのみか、一般新聞紙界が大なる革新を見るに至つたことは言ふまでもない。醫師及辯護士の團體は、何れも一定の資格の所有者によつて組織せらるゝ如くに新聞記者會院が會員たらしとするものに、自ら新聞紙の實際と理論とに關して試験を行ふのは、非常に有益であり、我邦にても有力な參考となすべき點でないかと思ふ。

新聞記者會院は會員を共濟すべく、各一年十二圓の會費を徵收し、之を失業基金、保護基金、孤兒基金等の各基金に積立つることとし、『失業基金』は會員が十三週間の失業中に生活費を支給し、『保護基金』は會員中に著作權其他の

出版に關し法律問題が起つた場合に會員の權利を保護する、『孤兒救濟基金』は會員の孤兒に對し一定の補助金を支給して、孤兒の獨立するまで救濟することにしてある、『準備基金』は會員の老年、不具等の保險を取扱ひ會員にして五十五歳、六十歳、六十五歳の契約満期に至らば、保險金支拂に五十パーセントの割増金を加へて支拂ひ、死亡及び不具となる場合も所定の金額を受取るのである。

猶ほ會院の重大なる仕事は就職登録にあつて、就職希望者及び新聞記者入用者の間に仲介の勞をとる、會院は之が爲めに英本國のみならず英帝國各地に支部を設立して連絡して居る、例へばロンドン區域に在住せる會院の新聞記者は“Auxiliary Committee of the Institute”を組織して有力な支部の一であり、又婦人記者も別に“Auxiliary Committee for Women Journalists”を設立して居る。新聞記者會院の會議は年々に英國の大都市に於て開かれ、新聞紙及新聞記者の職業に

關する一切の問題を議するのである。更に英國に於ては英帝國の新聞記者及新聞關係者の共同政策を協議する爲めに『帝國新聞會議』“Imperial Press Conference”の開催があり、英帝國全體の新聞記者地位の向上となり、且つ新聞紙發達に貢獻する所も決して尠しとせぬ。

我邦にも大正九年十二月十三日に『新聞記者協會』なる團體が設立せられた、その會の規約は(一)新聞通信記者相互の親睦を圖り品性を陶冶し其の社會的地位の向上を期する事(二)會員の老年、疾病、死亡、免職、退職、休職及其他の災禍より生ずる窮乏を共濟し死亡せる會員の遺族を援助共濟する事(三)新聞通信記者の就職に關し仲介の勞を執る事等であり、會員たらんとするものは新聞通信記者として一個年以上の經驗者にして會員二名以上の紹介を以て申込み、同會の評議員會の決議に依つて入會し得るとなつてゐる、會員間の制裁としては同會の目的に背反し、又は其體面を汚したるとき、評議員會の決議によつ

て警告又は除名することゝなつて居る、かゝる機關の設立せられたことは誠に喜ぶべきことであつたが、同會に指導的人物のない爲め遂に數年ならずして解散するに至つたことを遺憾とする。私は新聞記者の地位を向上せしむる爲めに一片の法律によつて定めたくない、是非とも新聞記者自らの手によつて有力な新聞記者協會の建設を熱望して居るものである。

以上は國家又は社會に於ける新聞記者の職業的地位に就いて歐米に於ける機關及び我邦に於ける實狀を説明したのであるが、然らば新聞社自身は勤続したる記者を如何に待遇しつゝあるか、近年我邦に於ても漸く記者の待遇改善を加へ、新聞記者の最低俸給設定の議と共に各社は、何れも勤続社員の優遇法を講ずるに至つた、大體に於て現今に於ける新聞記者の初給は、官私大學生の採用に際し普通の銀行會社と大差なくなつた、三四社の社員待遇法の實例を見るに概要次の如くであると云はれて居る。

一、中外商業新報社 社の經營が好成绩であつた場合には、その一半を分配する外に、年功加俸の制を作つてゐる、社員の在社中病氣災害等に遭遇した場合には、社として出来るだけの救済、補助をなすは勿論、それらの爲めに共濟會を設けて置いて、會費は社が社員に代つて支拂ひ、會の運用は一切社員の自治に任せてある、退職の場合には、その人の勤務年限と退職の時の給額に應じて、相當の退職慰勞金を與へる、長期間勤続の社員に對しては、特別慰勞金とも稱すべき恒産金を贈與し、退職者には別に前提退職慰勞金を加算給與する。次に三年以上勤続の社員の爲めに生命保險をかけて居る、保險料は社の負擔で、五年毎にその受取金額を殖やしてゆく方法である、記者の停年制度は、内勤は六十歳を限度とし、仕事の都合上、又は本人の健康能力の如何によつて五ヶ年間延長し得る定めである、外勤は五十歳位で内勤に廻す。

二、**國民新聞社** 社員の自發的組織と、社の發動による組織との二種がある前者は互助會なるものを設けて、中元及年末の賞與の幾分宛を積みて社員に必要な場合に應じて支出すること、なつて居る、社の自發的のものは退職手當と恩給制度とがその主なるもので、病氣もしくは老衰の爲めの退職者には、俸給三分の一以上を恩給として與へ、或ひは希望によつては一時金として支出する、思給は勤続十五ヶ年以上の人に、月給額の三分の一を死に至る迄與へる、その人が小兒を遺して死亡した場合には、その子が成年に達する迄同額を支給する、長期間疾病に犯された社員には、長期間全俸給を與へる*。

三、**東京朝日新聞社** 社員は新聞社の株主となり得られる、而して利潤の配當を受ける、勤勞に對しては六月、十二月に賞與を分配する、朝日財團は社長寄附の十萬圓を基金として各種の寄附金を積立て、相當の金額に上る

といふ、而して之を社員の疾病災害に際して支出する、社員の自發的のものに弔慰會があつて、同僚の不幸又は家族の死亡に對し相當の弔慰金を與へる、社と社員の共同組織の金融機關たるものに共済組合があつて、社員にして金錢上の必要ある場合は組合の出金額に應じ低利にて融通を受けられる、尙ほ大阪朝日新聞社には共済組合の代りに信用組合を設け、購買組合なるものもある。社員の退職手當も内規を定めて支給して老後の安全を圖らしめて居る。

大阪毎日新聞、東京日々新聞社には、俸給令なるものを制定して、記者の地位に應じて、俸給額を決定して居る、各社とも退職手當等を内規に規定して支給するに至つたことは、新聞記者の職業的精神を強め、青壯年の時期をよく新聞記者としての天職を全うし、喜んで勞苦に耐へて社務に執掌するの風を生ぜしむるであらう、然し我邦に於ける各社の待遇法は、更に改善すべき餘地ある

* 新聞及新聞記者(第一卷第三號)

こと申すまでもない、猶ほ新聞記者の地位を安全保證せしむることについて、國家として法律を公布したものは、オーストリー「新聞記者雇傭契約法」である、その概要を擧ぐれば

新聞紙の記事乃至挿繪の仕事をする爲め一定の給料で且つ一時的でなく新聞社に入るものは、入社に際し次の諸條件を記載した契約書を交付される。

- 一、擔當すべき仕事。
- 一、給料。
- 一、特別の仕事をした場合の賞與及び實費支給。
- 一、六十歳に至るまで五年毎に増給すること。
- 一、年に一箇月の休暇を與へること（但し十年以上の者に對しては少くとも一箇月半）
- 一、解雇は少くとも三箇月の豫告期間を以て之を爲すべきこと（但し五年以

上在社の者に對しては毎月一年に付き一箇月宛其期間を延長す）

- 一、六十歳に達し老朽し其他職を去る場合には恩給を支給す。
- 一、新聞所有者が代りし場合には、社主は其後一箇月の期間内に記者に對して退社を命ずることが出来る、此場合には若し其記者が五年以下勤績のものなるときは、給料一年分の退職金を支給され、五年以上十年以下勤績のものなるときは一年半分を與へられ、それ以上在職五年を増す毎に半年分づゝ増給される、尙此支給に付ては新舊社主連帶して其責に任ずる。
- 一、廢刊の爲め記者を解雇する場合には、六箇月以前に其通告を爲さねばならぬ。

一、新聞紙が其政治上の立場を變へた場合には記者は一箇月内に辭職することが出来るのみならず。上記社主交代の場合に於けると同一の退職金を請求し得る、新聞記者のかゝる場合の退職が正當なりや否や爭議の起つた際

に、五名の仲裁委員（中二名は社主側之を指名し他の二名は記者側之を指名し更にこの四名の合議を以て二名の委員長を指名する）より成る仲裁裁判所に依つて裁断される、若しこの場合に裁判所が記者の社に對して主張する非難を理由なしと認むるときは濫訴の故を以て一萬クローネ以下の罰金を科し得られる*。

* 未弘殿太郎 法窓閑話(二一七頁二一八頁)

第四章 雜報と社説

一 外勤記者の任務

新聞紙の目的は、既に述べた通り、第一にその日のニュースを報道することであり、第二には讀者にこのニュースの意義を明白にすることであつて、前者の新聞記事の大部分は、雜報と稱し、後者を社説及び論説と呼んで居る。

新聞記事の殆ど大部分は、雜報を書く記者によつて、提供されたニュースを以て充實させなければならない、この雜報記者を英語でリポーターと云ひ、「タネ取り」と言はれ、「探訪」とも言はれたが、兩者とも何となく新聞記者としての尊嚴を害するやうな言葉なので、近來はかゝる言葉を使ふものが少くなつてたゞ「記者」と稱せられるやうになつた、雜報記者の大多數は、外勤員として社

外の各方面に出勤するものである、外勤員には(一)中央官廳、公廳、政黨、裁判所、會社、銀行等を中心として材料を蒐集する本社直屬のものと(二)本社の直屬の記者であるけれども地方版の關係から地方の支局詰の『通信員』もあり(三)本社と特約して通信する『通報員』との三種に岐れて居る、米國の新聞社でウオッチ・Watch、とかチツプスター・Tipster、と呼ばれるのは、通報員の種類を指したものである、本社直屬の専任記者以外から、往々重要なニュースが提供されることがある、我邦では通信社の記者で、政界に古い經驗のあるもの、中にて、その通信社から『特種』を報道してしまふときは、どの新聞紙へも掲載されてしまふ爲め、或新聞社へ赴いて、その『特種』を賣り込むのである、而して買つた新聞紙のみの『特種』となつて現はれてる、若しその特種が世間を驚目せしむるに足るニュースの價值のあるものに對しては、それ相應の謝禮を受けること、なつて居る、英國でフリー・ランス "Free Lance" と呼ばれる階級の

原稿賣りは、我邦の特種賣りの一種とも見られる、英國ではこのフリー・ランスが時に専任記者以上のよい材料を持つて來ることもあつて容易に輕視し得ないものである、たゞフリー・ランスなる語には多少侮蔑の意味が含まれてゐるやうである。

雜報の専任記者は(一)政治部(二)經濟部(三)外報部(四)社會部(五)地方部(六)寫眞部等に別たれて居て、各部の外勤員は、特定の部署について、その方面のニュースの蒐集を擔當する、社會部には、特定の部署に就かずに、社内に居て部長から不意の事件に對する出勤を待つ外勤員もある、外勤員は成るべくよい材料を蒐集し、速かに書いて本社へ『原稿取り』なるボーイに委託して送る本社の部長はこれを校閲して、編輯員の手に渡す、編輯員は成るべく早い版に蒐集送達された原稿をのせるのであるが、外勤員は『原稿取り』の來る時間の遅れる時には、本社へ電話で知らせる、社の連絡部から速記者が電話口へ出て、

之を書きとるといふことになつて居る。政治部の外勤員中内閣擔當の記者は極めて多忙であつて、閣議の時には、その経過を聞く爲めに内閣書記官長に面會する、夕刊の午後一時三十分の縮切版へ間に合はす爲めに、一瀉千里に原稿を書き流す、『原稿取り』は出來上るのを待つて一目散に本社へ自轉車で走る、而して政治部の主任者のところへ原稿をなげ出す、政治部の主任者は、雜然と書かれた原稿を數分間に訂正し、大標題、小標題を附して編輯員へ廻はす、外勤記者は内閣書記官長の談話で要領を得なかつたので、夕刊の縮切を終つてから政治部主任者へ電話にて閣議内容の探查に關し打合はせをする、忽ち本社から自動車を送られる、その外勤員は直に自動車に乗つて、知り合ひの閣僚を訪問する、若し重要な材料を得たならば、自動車を疾驅させて本社に還る、政治部長と打合はせて、急いで原稿を書き上げる。次に官廳に配置された外勤員は、或役人にインタビューをし或問題をとらへて質問するとか、何の事件もないし

問題もないが、平常懇意にして居る役人と會つて、適當な材料を貰つて書くとかして原稿を提供しなければならぬ。

政治部の外勤員と政治部主任とが、不眠不休の活動をする事件には、政變と議會開會中とである、殊に我邦に於ける内閣の更迭は、特殊な勢力によつて動かされ、意外な人物が現はれて來るので、政治部の記者の活動は容易ならぬものである。政黨がありながら、政黨の首領に大命が降らすに、往々桂公が出たり、山本權兵衛伯が現はれたり、加藤友三郎男が乗出たり、清浦奎吾子が飛び出したりするので『誰れに大命が降下する』かといふことが、全く外間の豫測を許さぬ場合もある、或内閣の總辭職から、次の内閣の親任式に至るまでの間に長いものは半ヶ月もかゝるので、政治部の外勤員は、夜も十分に眠をとれず赤坂御所の張番などの部署についたものは一日中空腹を抱へ通したのもあるといふ有様である、憲政に常道のない我邦の政治記者は、外國の政治記者に見

られない苦心を味はせられるのである、それに外國の政治記者と異つて我邦の政治記者の夜更し癖は、實に我が政治家の悪習慣から止むなく行はねばならぬことゝなつた、内閣書記官長のインタビューが夜の十二時を過ぐる頃爲されても、先方も平氣なら、記者の方にも遠慮はない、貴族院の有力者と面會しやうとすると、朝六時に外出して、日中はどこに居るか判らない、夜の八時に赤坂の某待合に居ることがつきとめられると、九時半に築地の待合に出かけて居る、研究會の有力者の中には政治季節の最も多忙の時に、宴會を一日に五つぐらいかけもつ人もある、かゝる人を外勤員が相手とするには、こつちもその覺悟でかゝらねばならぬ、夜の十二時過ぎに訪問して歸りを待ち、一時の鳴つた時に面會するといふ場合も少くない、新聞紙の締切は普通午後十一時三十分、重大な問題が起れば一時頃迄も入れる、社の編輯員から見れば、「アノ人は締切時間を無視してゐる」と言ふが、日本の政治家を相手にして、材料をとるには「超

時間人」といふ惡口も甘受せねば出來ない。も一つ政治外勤員の目まぐるしい活動をするのは、議會に於てである、議會が開けると、政治部は總動員されて政治部活動の中心が議會の新聞社出張の控室に移る、政治部の主任者がこゝに出張して、部員を督勵し遺憾なき活動網を張るのである、政治部の外勤員中政黨記者は平常から各擔當の政黨員と知合ひになるけれど、官公廳擔任の外勤員は、一局部の専任になつて、一般政治から遠去かり、或は政黨員などとも知合ふ機會がないが、議會が開けると、平常の部署關係が全然變動し、貴衆兩院の各方面に働かねばならなくなり、そこに政治記者としての訓練を受け、政治の實際知識も諒解するやうになる、それ故に初めて新聞記者になつて政治部に入り、記者的訓練を受ける唯一の機會は實に議會中であり、又その人にとつて貴重な經驗を得る譯なのである。

經濟部の外勤員は、會社、銀行、取引所を中心に活動するのであるけれど、

政治部ほどに深刻な競争のないので、材料蒐集に餘り苦心も要しないし、仕事の上に於て政治部ほど不眠不休といふ緊張味を見ることが出来ない、外報部の外勤員は外務省を中心に仕事をなし、大公使館の外國使臣とも密接な關係を保つべきである、對外關係に非常な問題が起きた時は、この部の外勤員は内勤員と連絡して不眠不休の努力を必要とする、新聞紙の報道で最も重要な役割を演ずるのは、社會部の任務であつて、それだけ社會部記者の活動範圍は種々雑多である、國務大臣と會見しなければならぬし、街頭の乞食とも話を交はさねばならぬ、新聞記者の職分を、眞に理解するならば、社會部記者ほど愉快な者はないかもしれない、我邦では從來社會部の外勤員を、『三面記者』と輕侮したのであるが、新聞紙の中で最もよく讀む面と云ふならば、實に社會面なのであつて、この三面記事を蒐集し、最も面白く、最も讀み易く書くのが、社會部記者の仕事であつて、その任務は極めて重いものと言はねばならぬ、社會部の主と

して取扱ふ記事は、裁判事件、殺人、交通事故、火事、政治運動、社會運動、種々な自然界の異象、運動及び遊戲等であるけれど、近來は硬派に屬する諸問題を軟く書くといふ風潮を見るやうになつた、社會部の外勤員にして特定の部署に就くは、大體に於て裁判所、警視廳、宮内省等であつて、その他の多數は社内に居つて、事變の突發に備へられて居る。曾ては重大な殺人事件があると新聞社は警視廳と同様に社會部外勤員が、刑事と同じやうに各方面に活動して犯人と事件の眞相を探究して報道するのであつたが、近頃は警視廳が犯人搜索の便宜上記事の差止めを實行して、社會部外勤員の、この方面の活動を殺ぐやうになつた、その善惡の評論はこゝで省略するが、たゞ外勤員は未だに事件の眞相探究に、刑事らしい敏感な想像力と峻烈な觀察力を必要とし、且つ精確な判斷力を有たねばならないのである、社會部外勤員の任務の實質からして、新聞社は他の部門の記者に劣らぬ人物を用ひねばならぬのである。

要するに雑報を書く外勤員の生活は、悠々閑々たるものでない、繁劇で然もローマンチックな生活である、我邦のやうに夕刊も朝刊も同じ記者によつて働いて製作する新聞紙は、外勤員がフィルムのやうに廻轉して働かねば出来ない譯である、不規則であつて、自由がきかなくて、油断が出来ない、職分を有つて居る、それ故にリポーターとしての第一の條件は、長い不規則な時間に堪へる健康の所有者でなければならぬ、健康の悪い人はいかに優秀な學識を有つても、この方面で成功することは出来ない、第二の要件は人格氣品である、外勤員の人格氣品の劣等なのは、新聞社の名譽にも關するばかりでなく、外勤員として成功するにも人格氣品の備はつて居ることが重要な要素をなすものである、惡辣な手段によつての種取りは、一時勝つても最後には失敗し信用を墜して、記者としての生命を失ふやうになる、第三の要件は種々雑多の問題に接して自己を適應せしめ、その問題に忽ち精通し得るの能力を持つことである、元來リ

ポーターは著述家と異つて、今日活きて明日は死する刻々の現象や事實を對象として取扱ふものであるから、書くことに人工的な又修辭學的な工夫を凝す必要もない、接觸する問題から問題へと迅速に移つて、簡明に早く書き得る能力を有たねばならぬ、陸軍に關する記事も書ければ、主任者から命せられたあらゆる問題に對して探究して書き上げるの能力をそなへる必要がある、乃ち優秀な記者にはニュース・インスチンクトが發達し、どんなにつまらぬものも、ニュースとしての價值を有たすやうに書き上げられるのである。ニュース・インスチンクトはその人の天才でなくて寧ろ記者としての經驗と訓練を経つ、ある間に強められるやうになるのである。

二 ニュース・ソース

ニュース・ソースはあらゆる「人」と「場所」とが、ソースとなる、そして社會の

事象が複雑になればなる程、ニュース・ソースが複雑化してゆくののである、外勤員の眼前には、未知の未開なニュース・ソースが横たわつて居る、而して外勤員の経験、知力、理解力、想像力によつて無限に打開することが出来る、外勤員の愉快は、ニュースを「捕へる」ばかりが愉快なものでなく、新らしいニュース・ソースを発見した時にも新聞記者としての興味が湧くものである。

ニュース・ソースとなる事象には、既に豫期されたる場合と偶然の場合とがある、こゝに特に政治部の場合に就いて述べやう、政治部のニュース・ソースにて既に豫期されたる場合に於て、「特定の場所」として官廳、政黨本部があり、「特定の人」に官吏、政治家とがある、然し政治部のニュース蒐集の策動地帯は「特定場所」と「特定人」との擴大につれて廣められるのであつて、農商務省が農林省と商工省に分離すれば、外勤員は兩者に配置されねばならない、政友會が分裂して、政友本黨が出現すれば、そこへも記者を配せねばならなくなる、無産政

黨が成立すれば、勿論無産政黨の擔當の記者も配備する必要がある、次に「特定の場所」と「特定の人」でなく、全く偶然の場合が重要なニュース・ソースになることがある、例へば偶然なる場所と人によつて、政友會總裁高橋是清氏の關係及び總裁の辭退が知られたり、或は犬養毅氏の關係勇退が知ることが出来て、それから政治部總動員の活動が開始されるのである。かゝる場合に或人が或人に一寸した暗示を與へるとか、不注意に語つた言葉を英米の新聞記者は、チップ・ヒップと呼んで居る、手がかりといふ意味である、チップをさへ得れば、有能な記者は、忽ちに立派な記事を書き上げることが出来る。

更に有能な外勤記者は、ニュース・ソースの特定された場所や人にゴム糊の如くにへたばりついて満足するものでない、彼の精力によつて、どしどしと新ニュース・ソースを発見し開拓してゆくべきである、元來今日我邦の新聞紙界の弊としてニュースの専門化といふことゝなり、政黨、官廳の擔當の記者が一二の

特定場所に限定されてしまつてあるので、往々有能な記者を片輪にしてしまふことになる、それ故に記者その人の努力によつて、一二特定場所や人に甘んずることなく、各方面に仕事をするといふ心持を有つ必要がある、たとへば憲政會擔當の記者も、自ら進んで政友本黨なり政友會の政治家にも接するやうに努め、ニュース・ソースを自ら限定するやうなことをしてはならない、それと同じく或特定の人のみをニュース・ソースとして居ることは、ニュースペーパーマンとして活動範圍を縮少するもので好ましいことでない、米國の大統領としてウイルソン氏が、華々しい時代に、その御用記者の某氏も、米國新聞紙界の寵兒として名を擧げたが、ウイルソン氏の死去と共に、その人の新聞記者としての名聲も何時か衰へてしまつた、我邦にもかゝる例が稀れでないのである。

ニュース・ソースへの配置について、二つの場合がある、第一は特定の場所への『擔當』であつて、英語でフランス "Paris" といふのが之にあたつて居る、乃ちレギラー・ソース "regular sources" を受持つものを指してゐる、平素政治部員が擔當する部門は左の如き場所である。

内閣(首相官邸)、外務省、内務省、大藏省、文部省、司法省、陸軍省、海軍省、農林省、商工省、逓信省、鐵道省、拓殖局、市役所、憲政會本部、政友會本部、政友本黨本部、同交會事務所、新正俱樂部事務所、研究會事務所、幸俱樂部事務所(外務省は外報部に、鐵道省を經濟部に所屬させてゐるものもある)

第二の場合には部長の命令によつて特別の方面へ活動することであつて、英米新聞社でアツサインメンツ "Assignments" と呼ぶものであつて、外勤記者の大きに緊張して活動する場合である、たとへば入江侍從長が興津の西園寺公を訪問した場合に、西園寺公が果して何人を後繼首相に奏薦したかを入江侍從長を車中に訪問して推斷しなければならぬ、新聞記者として之れはなか／＼の大役な

譯である、社會部ならば皇孫殿下の御降誕に際し、社會部長は平生の擔當を引上げしめて、外勤員に特別の命令を與へて、皇孫殿下御降誕に關する材料蒐集に數名のものを働かせることもある、かくて之を“Special assignment”と稱する所以である、我邦では『特別の仕事を頼む』といふ場合を指すのである。

我邦ではクラブをニュース・ソースの如く考へてゐるものがある、それが爲めに外勤員は到る處にクラブなるものを組織するやうになつた、乃ち外勤員が擔當の官公廳、銀行、會社等に一室を提供せしめ、電話を設備して本社との連絡場所とするのである、今日各方面の記者クラブの數は次の如くである。

永田俱樂部、内閣記者會會(以上首相官邸)坂下俱樂部(宮内省)霞俱樂部外政會(以上外務省)竹橋俱樂部、一橋會、文部記者會會(以上文部省)安女俱樂部、瑞穂俱樂部(以上商工省及農林省)大手俱樂部、内政研究會、内革俱樂部(以上内務省)社會研究會(社會局)遞信記者俱樂部(遞信省)財政會(大藏省)司法

俱樂部(大審院)木曜會、鐵道研究會(以上鐵道省)辛酉俱樂部(陸軍省)黒潮會(海軍省)自治研究會、都政記者會會(以上市役所)櫻田會(憲政會本部)十日會(政友會本部)如月會(政友本黨本部)日比谷記者會會(警視廳)茜俱樂部(憲兵司令部)拓殖研究會(内閣拓殖局内)經濟記者俱樂部、經濟研究會(以上商業會議所)十八日會(協調會館内)金融同志會(日銀内)航運研究會(郵船會社内)瑞穂會(商業通信社内)東京飛行記者俱樂部、漫畫記者團、東京スナツプ俱樂部(國際情報寫眞部内)

以上のクラブには各新聞社の外勤員が加入して居る、然るに怠け者の記者にとつては、之れほど都合のよいニュース・ソースはないが、有能精勵なる記者にとつて、亦之れほど自由を拘束する制度はない、クラブ室は本社との連絡室として役立つならまだよいが、時に圍碁、將棋等まで備へ付けて終日こゝに暮らし、クラブ員の得たる材料を共通にして書くものもある、今日のクラブ制度は

新聞社にとつても外勤員にとつても有害無益なものであつて、新進氣鋭の外勤員を往々に墮落せしめる場合が少くない、我が新聞界革新は實にこゝからも行はねばならぬのである。

三 インタービュー

ニュースを蒐集する主要な手段は、インタビュー：“Interviews”である、インタビューと云ふのは、人を尋ねて、その談話から或種のファクト（事實）を捕へて記事に書くのである、我邦では『會見』とも言ふが、普通インタビューで通つて居る。

然しインタビューには二つの種類のあることを知らねばならぬ、乃ち一は正式インタビュー：“Formal interviewing”であり、二は略式インタビュー：“Informal interviewing”である、正式インタビューとは或種の問題について、

外勤員がその問題について最も熟知して居る人とか又は關係の深い人とかを尋ねて、その意見なり、ステートメントなりを得て、その人の名とともに新聞紙に出すものである、往々新聞紙に『某政客談』とか『某有力者談』最も甚しいのは『某消息通談』の名にて談話記事の掲載せられてをるものもあるが、之れは新聞紙倫理から言ふても好ましくないことであり、外勤員はかゝる無責任のインタビューの記事を書くものでない、俗に之を無責任なインタビューと云はれ英語で“Blind interview”と呼ばれて居る、新聞紙がこの匿名の談話を出すことは大に慎むべきことと思ふ。略式インタビューとは火事の場合に外勤員が部長の命令で飛び出す、火事場に着くと既に二三軒の家が燃へ落ちて鎮火しつゝある、外勤員は取敢へず附近にうろくして居る人に焼かれた家の商賣と死傷はなかつたか、又原因は何らしいと尋ねる、かゝる場合に外勤員が會つて話を聞かうと思ふ人は、その人の如何を問はず、たゞ火事の記事を書くのに材料を

得ればよいのである、一の記事に数名の人との話からファクトを捕へて綜合する場合を言ふのである、多くの新聞紙の記事は、この略式インタビューから出来て居る、乃ち略式インタビューは雑多の人々から得たるファクトの綜合的表現であるけれど正式インタビューは新聞紙に名を出すべき人の個人的表現を指すのである。

外勤記者のインタビューをするときに、先づ第一に相手の人物をよく研究することを忘れてはならぬ、既に知つて居る人物にインタビューするには失敗をすることがないかも知れないが、初めてインタビューする場合に、その人物が自分の質問し又は聞かんとすることを最もよく知る人であることを必要とし、その人を訪問して聞かんと欲することをよく語らしめるやうに工夫することが大切である、新聞記者になり立てのものは殊に相手の人物を研究して、問題外の話題をも話し得るやうに注意してかゝる心持があつて欲しい、顔さへ見

れば何か話すだらうといふ考へでインタビューすると飛んだ失敗を演じ記者として恥をかくことがある、第二に質問するのに用意してかゝることで、相手が一寸質ねて滔々數千言を話すやうなら、極めて氣樂でよいが、相手が沈黙家であるとなか／＼要領を得られない、そればかりでなく初めて會ふ場合には、どんな人も話すことを控目にして居るから、質問するのに豫めこれとこれといふ風に質問項目を作つてをいてかゝることが必要である。第三に相手の眼をよく見ることである。インタビューして相手のポケットや机上の書類などに視線を投げることを避け、成るべく先方の眼をよく見る方がよい、眼を凝視して居ると先方も話をよく聞いて居るものと思ふであらうし、此方でも先方が眞面目に話して居るかどうかが判り且つインタビューによつて或ファクトを探究しやうとするときに、先方の眼の動きで判斷するといふ老熟な人さへもある第四に成るべく服装をと、のへることで、蓬頭垢面などは大禁物である、外勤

する記者は高價な服装をする必要ないが瀟洒な風采をして相手に成るべくよい感じを與へることが大切であつて、大新聞社の名刺を信頼して先方でインタビューしたのに記者が餘りに不注意な風で會ふと先方が愉快に話をしないかもしれないし、悪い印象を受ける事は損である。第五に約束を嚴守することであつて、電話、書信にて面會日と時間を打合はしたならば必ずその指定された時間に赴かねばならぬ、それから談話中にこの點は書いては困ると注意を受けた場合に、よく先方の言ふことを守つてその部分を記事に書くことを控へるべきである、初心者はよく面白半分に先方の注意を無視して書いてしまつて信用を墜すことがある、之れは外勤記者ばかりの信用失墜でなく、その新聞社の名譽にも關することであるから十分注意すべき點であると思ふ。インタビューした場合に、第一回の會見を縁に將來も知り合ひとなるやうに心掛くべきものでその場限りだといふ淺ましい考を持つてはならない、猶ほ著者自身の經驗から

しても幾多の注意すべき點も少くないが、その中でも叙上の諸點が最も大切なことゝ信じて居る。

四 社説の傾向

新聞紙が報道と廣告を尊重するやうになつてから、社説を輕視するやうになつた、然しながら新聞紙は報道と論説との二つを完全に備ふべきであつて、私は世間一部にある所の論説不必要論に賛成することが出来ない。論説を不必要と言ふ一派の人々は

- 一、現代の讀者はオピニオン(意見)を聞くを欲しない、ニュースさへ與へられ、ばそれによつて自己の意見を造り上げるであらうと言ふて居る。
- 二、論説はこの忙しい社會に讀んで居る閑などない、老人と青年の讀みものである。

三、記者の獨斷的な見解は、今日の讀者の意思を少しも左右する力を有たない、新聞紙の社説が、輿論を代表するといふことは虚偽である。

四、今日の讀者は報道によつて、その新聞紙の對社會的態度を知ることが出來て、社説を讀んでその新聞紙の方針を知らうとしてない。

要するに論説“Editorial”が昔日の勢力を失つたことは事實である、報道の様式が目まぐるしいほど發達したのに拘はらず、論説の書方と様式は、實に十年一日の如く少しも進歩する所がなかつた。讀者の論説に對する信用を失ふたのでなくして、論説の書き方が舊態依然として進まなかつた結果であつた。論説無用論の根柢に存する思想は、報道の様式が進んで、論説よりも讀者がよく讀み、思想感情が報道によつてより多く動かされるといふ所にある。次に論説が一時世間から遠去かられたのには、論説を書く記者自身が、多く保守的であり、沒世間的な氣質を有つやうになつた爲めである。故に新聞社でも論説記者は自

分を唯我獨尊といふ風に考込んで居つて、他の者を雜報記者と輕蔑する傾がないでもなかつた。事實に於ては論説記者の方が餘程世間知らずであつて、一人よがりの論説を書いて喜んで居た。論説衰微の一因として記者自身の罪が與つて力あることを忘れてはならない。

かゝる傾向は歐米を始め、我邦に於ても共通した現象であつたが、歐洲大戰以來歐米新聞界の論説欄は著しく改善され勢力を挽回するに至つた。歐洲の大戰爭に際し、歐米諸國の新聞紙の讀者は、ニュースだけで到底満足することが出来なくなつた。國難に處し、紛糾した時局に直面して、明確な説明が欲しくなつた。そこで何々新聞はこの問題で何といふ意見を述べてるか、何々新聞はこの事件を如何に批判して居るかといふことを知りたいといふ思想が勃興したのである。この一般の要求に刺戟されて新聞紙の論説欄は新らしい生命を宿して更生するやうになつた。而して大戰中に歐米の有力なる新聞紙の論説は、獨

立權威ある意見又は説明となつて、重要な役割を演ずることゝなるやうになつた。今では論説無用論などは全く下火となつてしまつたのである。

我邦に於ける新聞紙の社説に對しては、未だに不必要とするものもあり又新聞社自身で社説を極めて虐待するものもある、然し大體の傾向としては社説を重要視するの風潮を見るやうになつた。社會でも新聞紙の論説を注意するに至つたが、一面に於て論説の書方又は様式に大に改善の工夫を凝らすやうになつたからである。

報道は單に赤裸々なファクトの叙述に過ぎない。然し論説は報道を基礎として、公衆に對する忠告又は説明を行ふものである。報道には少しの修辭的工夫を加へてならない。けれども權威ある新聞紙の社説には莊重な論調を忘れてはならぬ。一般的には成るべく簡潔に清新な書き方を選ぶべきである。餘りに技巧的な修辭は避けるべきである。社説を最も有効に讀者の心理に印象させるには、

或問題に對し自分だけの思ふてゝることを書くといふよりも、公衆が何を聞かんと欲し、大多數の讀者を如何に書くならば讀みてアトラクトさせるかといふことも考ふべきである。僧侶が聖壇で説教するのではない。論説を大多數の人々に興味を以て讀ましめなければ何の役にも立たない。社説が讀者の注意を惹く價値がなかつたから、不必要論が起きるのである。

殊に論説に取扱ふべき題目が、政治、外交、經濟のみに偏重することは好ましくない。論説の衰微は、政論家の一家言の獨壇場に化した結果でもある。それ故に論説の捉ふべき題目は、報道の範圍と同じく社會のあらゆる事象に展開さるべきであつて、このあらゆる事象を通俗化して書くことが大切である。社説の更生した生命は實にポピュライズされた所にあると信ずる。新聞紙の社説のポピュライズされたる二三の例をこゝに掲げて参考としやう。

天氣豫報

政府にのみ信頼す可からず

我國の天氣豫報が、兎角外れ勝ちなるを以て、動もすれば氣象臺測候所の効用を輕視するの言を爲すもの、少くないのは事實である。如何にも今日の氣象學は、尙その發達の中途に在る比較的幼稚なる科學であつて、大氣中の現象にして、未だ説明し得ざるもの決して稀ならざる實狀であるとは云へ、世界並に日本に於ける最近天氣豫報の的中率は八割と稱せられ、暴風雨警報乃至一般的晴雨の豫報に至つては、殆んど百發百中の域に達せんとし、航海航空、漁業、農作等の發達と安全とが、之に依頼する所多きは疑ふ可からざる所である。但し四面環海の我國は、同様の地理的情形に在る英國と共に、文明國中最も氣象の變化に富み、殊に豫知困難なる特殊の氣象に至つては、

全く英國の比ではない。就中中央氣象臺の膝下に在る東京附近は、其地形上複雑なる氣象状態を現出し、新聞紙上に發表さる、天氣豫報の的中率は、遙に阪神その他の地方に及ばず、爲に其豫報の確否を疑ふものある次第なれども、東京附近に於て新聞豫報の外れ易き原因は、必ずしも豫報當局者の技術のみに歸す可きものではない。

蓋し日本人は、天氣の晴雨を氣にする點に於て、最も神經過敏なる一國民であるが、特定地區に於ける特定時間の晴雨を、十二時間餘の以前に豫知して、之を朝夕刊の新聞紙上に確報するが如き、現代科學の尙ほ甚だ困難とする所である。然れども例へば驟雨襲來等、氣象上突然の變化にても現在の設備を以て、數時間以前には之を豫知すること、決して難からず、唯だ新聞紙以外には發表機關を缺くが故に、此突發的變化を一般に周知せしめ得ない現狀であるから、新聞豫報以外の突發的變化を、氣象臺が豫知せる場合に於け

る速報機關が、完備せらるゝに於ては、日常生活上の便益一層大なる可しと信するものである。若し進んで此方面に興味を有する一般市民が、自ら氣象觀測を爲し、氣象臺の豫報事業に協力するの風を生ずるに至らんには、之に依て著しく觀測網を密にすることを得る筈なれば、聽ては局所的天氣豫報の正確をも期待し得らるゝ譯であるから、我輩は文明國民に相應しき高尚なる娛樂としても、此公益事業に助力するに至らんことを勧誘するものである。英國の如きは、素人の篤志觀測所の數實に五千餘の多きに上り、専門氣象技師に協力して、記録に、豫報に、著しき成績を擧げて居る程の有様であるのに、我國に於ては、殆ど此種の例を聞くこと稀にして、殊に英國の富豪貴族が、趣味として自力にて測候所を設け、氣象研究に従事して、斯界に有益なる寄與を爲しつゝ、あるの例に鑑みるも、我國の富豪篤志家に向つて其奮發を促さねばならぬ。然るに一切を政府に依頼して、國民は恰も之を餘所事のや

うに感じ、全然無關係の第三者たる如き、冷淡なる態度を以て、徒に豫報を批評するに過ぎざるの實狀であるのは、氣象觀測の振はざること怪しむに足らない。然も其依頼する所の政府が、之に支出する金額は四十五六萬圓の小額であつて、地方にて分擔する全國約六十の地方測候所（外に島嶼所在の約十箇所は中央氣象臺直轄、臺灣、朝鮮、支那所在の分を合すれば百二十箇所）經費亦僅六七十萬圓に過ぎざる微々たるものであるから、其設備の不充分なるは勿論、其職員の待遇甚だ菲薄なる爲め、有能の士が進んで斯界に志すことを望み難き實況である。然るに風雨の變多き我國に於て、氣象觀測豫報事業は地震研究と相並んで、是非とも其發達を計らねばならぬ國家的急務であるに就ては、政府は大に經費を増加して、其設備の完全を期すると共に、國民一般の從來の傍觀的態度を改め、自身に研究協力するの風を興さんこと我輩の特に其必要を認むるものである。（時事新報より摘載）

盜難激増

戸締を嚴重にす可し

最近三十年間に、東京府下の人口が二倍半に増加したるに對し、犯罪件數は三倍に増加した。就中昨年の犯罪總數約七萬件は、其前年に比して三割増に當り、更に本年は昨年よりも一割五分増加の見込みであると云ふ其中にも殺人強盜等の兇惡なる犯罪は、本年に入りて頓に激増し、殺人被害は本年十月までに、昨年一箇年間の全件數百三十四件の上に出で、強盜被害は本年五月にして、既に昨年一箇年間の全件數二百六十三件を凌駕してゐる。尤も此種重大犯罪は、其件數より見れば毎月數件乃至數十件に過ぎざるに反し、全犯罪統計の四分の三を占むる竊盜被害に至つては、昨年毎月四千件内外を上し、唯年末二箇月に於てのみ五千件を突發せる記録に對し、本年は毎月平

均が五千件に垂んとする實數であるから、此趨勢を以て例年最高の竊盜被害件數を示す歲末に至らば、恐らく未曾有の多數に上るものと豫想せられるのである。而して各種竊盜中、被害件數最も多き搔つ拂（本年前半期毎月平均二千二百件）及び掬摸、板の間、萬引、目見得その他の特殊竊盜（合計にて同上一千二百件）は、其犯行が開放せられたる場所に於て遂げらるゝか、若くは詐欺的性質を帯びたものであつて、其被害比較的輕微なるものなれども忍込（同上九百四十件）、空巢狙ひ（同上六百七十件）の如き代表的竊盜は、其手口概ね計畫的にして、時に居直り強盜に變じ、或は殺人傷害の兇行を演ずることあり、最も危險なる竊盜手段であるが、此種の竊盜及び強盜（同上五十件）の大部分は、悉く被害者の家宅に侵入して犯行を遂ぐるものであるから、被害者にして若し戸締に嚴重周到なる注意を加へしものならんには、殆んど完全に豫防し得る筈の犯罪である。固より脆弱なる日本家屋の構造上

障壁を破壊して押入るが如き強窃盜に對しては、豫防困難なる事情なきに非ざれども、斯くの如きは極めて少數の例であつて、本年一月より五月まで警視廳管下に於ける忍び込窃盜累計四千六百九十一件、空巢狙ひ三千三百七十七件、強盜（屋外をも含む）二百七十八件に對し、鎖鑰錠前破り、焼切り、土藏破り等の窃盜は總計僅に百五十件であつて、家宅侵入盜難全體の百分の二に達しない割合であるから、是等の犯罪の大多數は、被害者の不注意に因るものであることを察するに足るのである。

蓋し盜賊と雖も勞少くして効果多き手段を選ぶものであるから、戸締嚴重なる富豪の邸宅よりは、寧ろ侵入容易なる中産以下の家宅を襲ふ傾向あるのみならず、常習的盜賊は、豫め刑罰の程度を考慮して犯罪を行ふが故に、同じく窃盜罪なりと雖も、情狀重き者として處罰さる可き破壊侵入等の手段は努めて之を避くることを常とするのみならず、最近の強窃盜犯人は、必ずし

も常習的犯行者ばかりではなく、不景氣の爲生活窮迫せるものが、窮餘犯意を生ずるに至るものが、少からざる割合を占むると云へば、是等窮民を驅つて初犯の機會を興へ、更に之を常習的盜賊に化せしむる一半の責任は、確かに不注意なる被害者側に歸す可きものである。故に各自戸締を嚴重にし、盜難豫防手段を講ずるのは、直接に被害を防止する所以なるのみならず、間接には窮乏せる良民を初犯の誘惑より救ひ其常習犯たるに至るを防ぐの社會的責務であると云はねばならぬ。即ち市民が銘々戸締その他の自衛手段に留意し、以て豫防警察と協力して、此歳末に於ける犯罪増加を防止す可きこと、我輩の切に希望する所である。（時事新報より摘載）

景氣はどうなる

明るい感じがして來た

景氣はどうなる

「何分不景氣で」といふ歎聲を聞くのも随分長い間のことである。大正九年二月の財界反動來から既に六ケ年になる。不景氣は六ケ年も繼續し、それも本年は特に深刻である様に感ぜられた。この「不景氣」は何時まで續くか。今後の財界はどうなるか。是は何人も知らんと欲する問題である。財界の景氣が今後どう動くかを今日において豫斷するは、固より困難なことではあるが、吾人は財界の種々相を綜合して、財界の景氣はや、好轉の步調に移りつゝあるものと判斷す可き理由を有してゐる。成る程、吾人が日常目撃する諸現象は財界の景氣が依然甚だしく不況であることを示してゐる。然し大正九年春財界の反動が襲來した時の實狀を考へても分ることであるが、當時先づ大恐慌を感じたのは株式市場であるとか、事業家であるとかいふ種類であつて、一般の人々は尙財界の好況に酔ひ、消費力などもわう盛であつた。翻つて昨今の財界の狀況を考ふるに一般に消費力は大いに減少してゐる。商店の

賣行などはすこぶる悪い。従つて不景氣は餘程深刻である様に感ぜられるけれど、財界の大勢を測定す可き各種の現象は寧ろ財界が好轉しつゝあることを感ぜしめる。

先づ本年の貿易に就て見るに、本年の貿易は輸出入とも嘗てない盛況であつた。十一月中旬までの輸入は二十三億三千一百萬圓、輸出は二十億三千八百萬圓、合計四十三億六千九百萬圓である。是を我貿易史上盛況のレコードであつた大正九年の四十二億八千萬圓に對比するに、本年は十一月中旬まで既に過去のレコードを破つてゐる。もつとも輸入金額の増加は爲替の低落にも原因してゐる。輸入數量が金額程でないことは是を認める。具體的にいへば、本年十一月中旬までの輸入金額は大正九年全年のそれと同一であるに拘らず、輸入數量が大正九年程でないことは吾人も是を承認する。然し兎に角是だけの大輸入があつたこと、しかして是に對し輸出も未曾有の盛況を示

し、依然入超であるとはいへ、二億何千萬圓臺の入超を減じたことは、我が財力の偉大なることを表示する一材料であるといはねばならぬ。然らば明年の貿易は如何といふに、入超の如きは更に一層減じはせぬかと思ふ。といふのは本年は昨年の米作不良のため外米の輸入が一億圓にも達したけれど、明年は激減するに相違ない。しかして綿花の如きも本年の持越綿のため明年は本年程ではなからうと思はれるからである。昨年の輸入激増の原因は綿花、鐵材、木材であつた。復舊事業の關係上本年は鐵材木材は激減し、米及もみが是に代つた。是等は關稅免除の結果ともいへやう。然るに明年は是等の輸入が激減する事情があるとすれば、入超のすう勢は今日以上に更に緩和されるに相違ない。かくの如くに貿易がいん盛であること、入超の大勢が漸次緩和されることは、財界好轉の有力なる一材料と見て差支あるまいと思ふ。

次に是を農村産業に就て見るに、本年は春蠶だけで一億七千萬圓位の増收

であつた。又麥作は二割近くの増收で、これも例年に比し二億圓からの増收であつた。春蠶と麥作だけで三億八千萬圓だけ農村をうるほした譯である。是が農村景氣の回復に相當の效果あることは疑ふまでもない。加ふるに本年の米作は可なり豊せうを傳へられ、農商務省第二回豫想は六千萬石に近い豊作だと報じてゐる。是は單に外米輸入防止の原因であるばかりでなく、本年に引つづき農村經濟改善の有力なる原因となるに相違ない。

更に轉じて海外の經濟事情を見るに、我國の景氣と最も關係深き米國の財界は、本年において非常に改善され、種々の事實において財界の好轉を報じてゐる。ニューヨーク株式市場の出來高は近年にない盛況に達した。スチール株は本月上旬において嘗てない高値百三十八弗の相場が建つた。綿花も小麥も豊作である。米國歐洲間の取引も著るしく増進した。是等は我國の財界に好影響を及ぼす材料である事敢て辯するまでもない。以上は主として我國財

界好轉の材料となるべきものに就て陳述して見た。顧みて財界の悲觀材料を考へたならば、この方面にも憂慮す可きものは幾何となく殘存してゐる。銀行の貸出状態が改善されない如きはその一例である。然し大體觀としては好轉の材料の方が多くかつ有力である。吾人は依然整理緊縮の必要を力説するものであるが、敍上の例を始めとし、幾多の有力なる好轉材料が我財界に現れたことは、是を認めてよろしいと考へる。(朝日新聞より摘載)

男女共學問題

——婦人問題の立場から——

最近、文部省では全國の幼稚園制度の完備のために畫策するところがある
と傳へられる。

幼稚園制度の男女兒童に與へる教育上の効果については、云ふまでもなく、

多々あるであらう。その中でも、彼等男女の兒童が一しよになつて、同じ訓
育を受けるといふこと、いはゆる男女共學から自らにして醸し出される對異
性の融和的感情の如きは、最も大きな効果の一つであるであらう。この點か
ら云つただけでも、幼稚園を更に完備したものとしようとする當局の計畫は
たしかに有意義な計畫である。

○
この幼稚園の男女共學と連關して云ひたいのは、更に小中學程度(其他)
が男女共學の制度に改めてほしいといふことである。私はこの事を必ずしも
教育上から云ふのではない。特に婦人問題の立場から云ふのである。

改めて云ふまでもなく、今日の結婚制度から醸されるさまざまの悲劇は、そ
の原因に溯ると、男性は女性を、女性は男性を、相互に知らないところにあ
る場合が甚だ多い。

結婚する年齢に達するまで、互ひに異性について何等知るところのない男女が、偶然の機會から結婚をするのである。趣味感情、思想等の一致を缺くことの多いのは云ふまでもなく、男性が女性といふものに對して、何等の同感がなく、女性が男性といふものに對して、いさゝかの理解がなく、従つてこの結婚の幸福であり得るわけのないのは、寧ろ當然のこと、云はなければならぬ。

結婚の悲劇を救治するためには、さまざまの方策が近代において講せられてゐる。戀愛を以て、結婚の基礎としようとする新しい性道德の運動の如きもその最も重要な一つである。其間に戀愛のあるとないとは、いかにその結婚を幸福にし、不幸にもするかといふことに就ては、無論細説を要しないであらう。

しかし、その戀愛にしても、男性と女性との間の眞の理解の上に築かれたものでなければ無意義である。事實、世間にも戀愛を基礎として結婚をしながら、却つてその関係の一層悲劇的な例はいくらでもある。結婚は戀愛の墓場などいふ諺の生れて來るのも決して理由のないことではない。しかし、この場合の戀愛は、恐らく本質的な眞の戀愛ではなくて、假面をかぶつたうその戀愛である。

沙翁の「ロミオとジュリエット」の中に「若い者は戀はその心に宿らないで、その眼の中に宿る」とか「戀は盲目である。戀人は互にその眞價を見ることが出來ぬ」とか云つてあるが、これは確かに千古の名言である。戀愛を基礎としながら、その結果が不幸に終るのは、心の中に宿つた戀愛ではなく只眼の中に宿つたそれであるからである。眞にその戀人の眞價を見ることの

出来ない盲目の戀愛であるからである。蓋し、さういふ盲目的戀愛を却けて眞の戀愛に眼ざめる可能性を持つやうに、人を訓育することが、男女共學制の自らに齎らす一つの効果であることを忘れてはならない。

○
小學校から、男女共學であるならば、彼等男女は、知らず識らずの間に、お互ひに異性といふもの——女性は男性といふものを、男性は女性といふものを、夫々に理解することが出来る。すでに、性的意識に眼ざめて、お互ひに知りたいたいと思ひ、又事實知らなければならぬ時期になつてから、いかに周章狼狽しても、それは急に知ることが出来ない。知る必要のないうちから自然に知ることが出来てこそ、いよ／＼必要に應じての戀愛の選擇にも比較的誤りなきことを得るであらう。お互ひに理解し合つた間の戀愛は決して沙翁の所謂「眼の戀」ではない。これは實に「心の戀」である。結婚の基礎たる

べき戀愛はいふ迄もなく、此心の戀でなければならぬ。

○
戀愛は無論一つの例に過ぎない。當來の文化が、男女兩性の文化の融合でなければならぬ以上、そして其爲にはもつと／＼男女相互が理解し合ひ、同感し合はなければならぬ以上、其事に最も重要な役目を演ずる男女共學といふことは、今日に於て、もつと重大なものとして考へらるべき必要がありはしないか。

無論そこには、多の弊害もあるであらう。しかし利弊は相伴ふのであるから、弊の一面だけを見て、利の一面をも没し去るのは、決して賢明な人のすることではない。私は、如上の意味でこの問題について、特に教育界の諸家の一考を煩はしたいと思ふ。(國民新聞より摘載)

最近各新聞紙の社説は、文章體よりも口語體を用ふるやうになつた。而して

様式と題目とが著しく通俗化したけれども、未だ冗長といふ風を脱し得ないやうである。説明的といふことに於て冗長の點には、自ら一利もあり一失もあらう。然し成るべく文體を簡潔にする方が讀者が読み易いし印象的にならうと思ふ。

社説は普通の新聞社に於て主筆の下に數名の論説記者があり、銘々自由に書いて主筆が檢閲して掲載したり或は主筆が論説記者に何問題を書くべきかを注文して書かせたりする、主筆が編輯局長の下にある場合に、社説として掲げる論題を編輯局長、主筆その他の幹部と協議して選定することもある。外國新聞紙の中にはかゝる方法を探るものがあるけれど、我邦では稀れであつて、主筆が勝手に題目を選定し、社説の内容をも決定して掲載する。予は有能な主筆は編輯局長を兼務し、論説と報道との機能を總覽するのが最も適當であると信ずるものである。

第五章 外國電報の話

一 通信部の役目

新聞紙に掲載せられる通信を取扱ふ部門に通信部といふのがあつた。通信部は内國通信部と外國通信部との二つに別けてる新聞社もある、然し新聞社によつては内國通信を取扱ふものを「連絡部」と云ひ、外國通信を取扱ふものを「外報部」と稱するものもある。こゝには特に外國通信を取扱ふ所の部門について述べやう。大毎や大朝では外國通信部を支那課と支那を除く諸外國とを受持つものにと別けて居る、支那課を設けてる主旨は、我邦の新聞紙として支那の事情を重大視して居る爲めであつて、支那課といふものを設けない新聞社でも所謂支那通といふのがあつて支那に關する事項を擔任して居るものがある。外國通

信部の主要な役目は、外國電報を翻譯し、その取捨選擇をなし、諸外國から來る通信文を檢閲し、重要な電報を題材として説明的報道を作成したり、或は外政問題についての探訪をも行ふのである、現今のやうに國際政治が複雑となり一般國民の海外に關する知識を欲求するやうになつた以上、この外國通信部の役目は極めて重要なものと言はねばならない。

二 通信網

世界各國に起つた、政治上、經濟上、社會上その他種々の事象を、恰も國內に於けるニュースのやうに一刻も早く知らんとするのが、現代新聞紙の讀者の要求であり、又その要求に應ずるのが現代新聞紙が爲さねばならぬ讀者への奉仕なのである。かくて現代新聞紙は國內のニュースを蒐集する爲めに、完備せる方法を用ふると同時に、國外からのニュースを蒐集する爲めに、通信網を造

る必要がある。是が爲めに大新聞社は、外國通信部なり外報部なりを中心に、先づ世界の重要な都市例へばロンドン、パリ、ベルリン、レニグラード、ワシントン、ニューヨーク、北京などに本社直屬の特派員を派遣したり、その他の土地に特置員を常置したり、或は通信員を置いたり、更に各國の大通信社と特約して、海外ニュースを網の目の様に張つた通信機關に依つて蒐集するのである。是れを普通に通信網と稱して居る、特派員といふのはロンドン・タイムスではスペシアル、コレスポンデント "Special Correspondent" といふのに相當して居る。ロンドン・タイムスでは大陸へ最も早くスペシアル、コレスポンデントを送つて偉大な成功を收め名聲を博した、スペシアル、コレスポンデントは何か問題が起つた時に派遣されたるものであるが、同じ特派員にもアワー・ウォン・コレスポンデント "Our own correspondent" といふのがあつた、之れは特に本社からロンドンなり、ワシントンなりに社員を特派してその土地に滞在して

通信の任にあたらしめるものを云ふのである。單にアワー、コレスボンデント
"Our Correspondent" といふのは或土地に居住する適當の人に通信を委頼してを
くものを指して居る、之は我が通信員に相當する。

今一例として大阪毎日新聞社が有する海外支局及び通信員所在は次の如くだ
と言はれてる*。

歐 洲

倫敦、マンチエスター、ダブリン、巴里、リオン、マルセイユ、伯林、ハン
ブルヒ、モスコ、ライプチヒ、ワルソウ、スタットガルド、コペンハーゲ
ン、アムステルダム、ヘーグ、ローマ、ヴェニス、マドリット、リスボン、
ストツクホルム、クリスチヤニア

北 米

ワシントン、ニューヨーク、ボストン、シカゴ、サンフランシスコ、シヤト

* 大阪毎日新聞社大觀

ル、ヴァンクバー、ヒラデルヒヤ、ローサンゼルス、ニューオリンズ

南 米

リマ、リオデヂャネイロ、サンパウロ、ブエノスアイレス

阿 弗 利 加

カイロ、アレキサンドリア、ケープタウン

太 洋 洲

布哇、マニラ、スラバヤ、バタビヤ、マカツサル、メルボルン、シドニー、
ブローム、バース、ウエリントン

亞 細 亞

カルカッタ、コロombo、ボンペー、テヘラン、マドラス、バンコック、シン
ガポール、ラングン、ウラジオストツク、イルクツク、チタ、ニコラエウス
ク

支那

大連、奉天、旅順、長春、鐵嶺、遼陽、哈爾濱、四平街、立山、寧古塔、吉林、開島、安東、義州、營口、青島、齊南、芝罘、北京、天津、上海、南京、廣東、漢口、長沙、福州、香港、寧波

尙ほ大新聞社は大毎の通信網と同じ様な系統の通信機關を具備して居るが、その社を見る所に従つて、土地に相違がある。その一例を言ふならば大毎が亞弗利加のアレキサンドリアに通信員を置くも時事新報社はボートサイドに通信員を置きマルタにも置くといふ風に異にして居る。重大なニュースを網で採へるのであるから、新聞社としてはこの通信網に十分の研究を凝す必要がある。大新聞社は叙上のやうな社直屬の通信機關を有つ外に概ね次の内外通信社から外國ニュースの供給を受けて居る。

ロイテル社(英國)聯合通信社(米國)合同通信社(米國)ハヴス社(佛國)トラン

スオツエアン社(獨逸)ボルドー無線通信社(佛國)ロタス社(露國)ステファ
ニ社(伊太利)國際通信社、日本電報通信社、帝國通信社、東方通信社

右の如く大新聞社は海外ニュースの蒐集に非常な苦心と莫大な經費を投じて居る、編輯局の豫算の中で、外國電報料の高は極めて膨大なものであつて、特に巴里媾和會議、ワシントン會議、北京會議といふ國際的重要な會議が開かれる場合に要する經費は、實に驚くべきものである。

尙ほこゝに世界に於ける主なる通信社と我邦に於ける通信社とについて、外國電報の系統を一言したい。ロイテルは我邦で最も早くから知られて居る外國電報であつて、時事新報は明治二十六年にロイテルと特約したる先驅であつた。ロイテル社(The Reuter Telegraph Company)は千八百五十一年に獨逸人のバウル・ユリウス・ロイテルが創立したものであつたが、大陸の新聞通信事業に對する官憲の壓迫干涉の甚だしい爲めに、ロンドンに本社を設けて活動するやうにな

つた。千八百六十五年に株式會社となり、ロイテルの死後は英國生れのロイテルが専務取締役として仕事をして居たが、二代目ロイテルの死後は純然たる英國人が社長となり、ロイテル社全體が英國人で組織されるやうになつた。彼の歐洲大戦中は英國政府から補助金を交付された事實もあり、英國の對外的宣傳機關と認められるやうになつた。それ故に或事件のニュースそのものには信賴し得る所もあるが、事件に對する論評的報道には十分注意して讀まねばならぬ點が少くない。英國のロイテルと對抗して佛國にハヴス社 "L'Agence Havas" がある。佛人シヤアル・ハヴスが千八百三十五年に巴里に通信業を創始して、今日の盛大を呈するやうになつた。千八百七十九年にデルランジュ男が買収して株式會社に組織變更した。同社の通信を悉く佛國政府の御用通信とのみ斷言し難いが、時の政府はロイテルに對抗してハヴス社を利用して對外的宣傳に使用すること稀でなかつた。

米國の聯合通信社 "The Associated Press" は千八百九十三年に合同通信 "The United Press" に對抗して市俄古に於て設立した。創立者はストーン、ローソン、ノイエス等が相計り新聞關係者の會員六十餘名を以て新聞通信組合の如きものを組織して、ユナイテッド・プレスと競争したが、千八百九十八年に或訴訟事件以來紐育州法の下でニューヨーク、コーポレーションを組織するやうになり、今日でも依然として普通にアツソシエテッド・プレスと稱して居る、聯合通信は他のロイテルやハヴスと全く組織を異にし、米國の有力な新聞社が會員となつて相互に新聞記事の蒐集及び交換をするのである。例へば聯合通信の會員は必ず聯合通信の代表者にその土地に起つたニュースを提供する義務があつて、大都會の如きでは聯合通信の代表者が會員の新聞社を歩いてニュースを蒐集し、若しそれが重大なニュースであるならば専用線を使用して、全米の會員に送信するのである。千九百二十四年の専用線延長は九萬八千餘哩で、之等の

電線は實に晝夜間斷なく使用されて居る。千九百二十四年の總會員數は千三百に達し、全米國の日刊及びサンデー新聞紙の大半を會員にして居る。要するに新聞社の通信組合で、會員は年一回總會を開いて理事十五名を選び、その中から種々の役員を選擧することゝなつて居る。聯合通信の全米に於ける國內的勢力も偉大であるが、その國際勢力もロイテル、ハヴス等に對抗して敢て遜色がない、而して消極的に米國の對外宣傳の色彩を帯びて居るやうである。合同通信も米國內で聯合通信と對立した一大新聞紙の通信組合であつて、その組織は略ぼ同様である、『米國第一』^{アメリカファースト}に於て聯合通信と同一であるけれども、對外的通信に於て聯合通信よりも御用の色彩が薄いと評せられて居る。

最後にロイテル、ハヴス、聯合通信等と全く性質を異にして居るのに、勞農露國の『タツス』通信がある。こゝに勞農露國の通信網について一言しやう、元來露國の通信社は概ね御用通信社であるが、帝政時代に於ける最も代表的な

ものはペトログラード電報通信社“The Telegraph Agency of Petrograd”であつて、一般には通信略號の「ウエストニツク」といふ名の方が廣く知られて居る、創立當時は一箇の商業通信を目的に開始されたのであつたが、漸次に事業の擴張を行ひ、帝政時代に於ての國民的大通信社となり、殆ど政府事業のやうになつて、内閣の更迭と共に通信社の幹部やら、大陸の首要都市に派遣されてる特派員までも異動するやうになつた、實際上官營に近いものになつてしまつたのである、然るに勞農露國になつてから、ウエストニツクの地位に代つて世界的宣傳機關となつたものにロスタ通信が現はれ、全くの國營通信社である。然し現在のロスタ通信は宣傳機關の一部であつて、總體的の國營通信社にはテレグラフノエ、アゲントスツヴォ、ソヴェートスカゴ、ソユーズ（ソヴェエト聯邦電報通信社）があり、『タツス』の略號の方で通つてゐる、『タツス』の内部には（一）ロシア社會主義聯邦ソヴェエト共和國のロツシースコエ、テレグラフノエ、ア

セントスツヴォ（露國電報通信社）で、『ロスタ』の略稱で知られてるもの（二）ウクライナ社會主義ソヴィエト共和國のラヂオ、テレグラフノエ、アゲレトスツヴォ、ウクライヌイ（ウクライナ無線電信通信社）で、『ラタウ』の略稱で知られてるもの（三）トランス、コーカシア社會主義聯邦ソヴィエト共和國のザカフカズスコエ、テレグラフノエ、アゲントスツヴォ（トランス、コーカサス電報通信社）で、『ザクダク』の略稱で知られるもの等の三つの内國的通信社に別れ、對外的に代表せらるゝときに、三者が統一、連絡されて『タツス』となるのである、從來『ロスタ』として知られたものは、今では『タツス』となつて、對外通信の活躍を行ふやうになつた譯である、『タツス』の本部は『ロスタ』社であつて、外國部は外務省内に存し、外務省は諸外國からの『タツス』の情報を待つてるといふ方法になつてゐる、夫故に『タツス』そのものが對内的にも對外的にも、政府の宣傳本部であると稱しても過言でない、『タツス』の世界的

通信網は實に驚くほどの仕掛で、ロイテル、合同、聯合などもその比でない。何となればウエストニツク時代にはロイテルと提携して活動した關係上、ロイテルその他の通信社と提携すべき筈なのに、『タツス』の眼中にそんな提携とか協定といふことがない。自主獨往とでも申さうかどし／＼と他の通信社の協定地帯に無遠慮に侵略してゆく、されば今日『タツス』の通信員の居らぬ國はない程に活躍して居る。例へば英、米、獨、佛、伊、印度、埃及、アフガニスタン、ペルシア、トルコ、支那、メキシコ、南米諸國、南阿等世界のあらゆる各地に通信員が配置されてゐる。我邦にも大正十二年以來ロスタと東方通信社とが通信員の交換を行ふことになつた。

我邦に於ける海外電報を取扱ふ通信社に國際通信社、日本電報通信社、帝國通信社、東方通信社等があり、各社それ／＼の特色を有つて居る、然しながらロイテル、ハブス、合同、聯合、タツス等に對抗し得る國民的通信社は未だ成

育してない、各社何れも日本の對外機關といふよりも、外國の通信社なり無線會社なりから電報を買ふ特約をして、我が新聞社に賣るといふのに過ぎない。國際通信社は當初の目的は日本政府の宣傳の機關といふ意味で設けられたが、何時の間にか外國電報を買ひ込むの位置に墜ちてしまつた。乃ちロイテル社を通じて日本のニュースを外國へ送信する方針で居たところが、ロイテル社がその大部分を棄て、しまふので、そのまゝ中絶し、却て國際がロイテルを安く買つて、日本の新聞社に『國際ロイテル』として賣るやうになつた。然し近頃では『倫敦國際二日發』とのみ記して居る。日本電報通信社も外國へ日本のニュースを賣るのでなくて、合同通信社からのニュースを特約して、各新聞社に賣込むのであつて、『ゼネヴァ合同電通四日發』といふのがそれである。帝國通信社では獨逸のトランスオツエン通信社と特約して、ナウエン無線電信局から放送する新聞情報の極東に於ける獨占權を獲得し、更にポルドウ無線電信局放送

の新聞情報をも併得して、日本の各新聞社へ賣るやうになつた、『ナウエン帝通十日發』といふのがそれである。東方通信社は大正十二年にロスタと通信員の交換を行つて、通信員をモスコに特派しロシアのニュースを日本の新聞社に賣るが、主としては支那に於ける各地の電報を賣つて居る、『青島東方八日發』と書かれてるのがそれである。要するにわが新聞社は各種の通信社から海外ニュースを仰ぐこととなり、今では重大なニュースが『落ちる』といふことはない、然し是れを國家として見るならば、我邦に確たる國家的通信政策のない結果、國際的には少なからざる不利益を蒙つて居ることも認めねばならぬ。

今こゝに世界の六大通信の勢力圏を見るに、ロイテルは大體に於て英本國、英國殖民地、支那、埃及等に地盤を有し、聯合通信は米國、ハワイ、フィリピン、メキシコ、南米等に互り、合同通信は米國を中心に歐洲の各地に勢力を張り、ハヴスは佛國を中心にラテン系諸國に地歩を占め、伊太利のステファニ通

信の株主ともなつて居る、伯林のコンチネンタル・テレグラフエン・ゲゼルシヤフト即ち「ヴオルフ」は獨逸を中心に露西亞の一部、スカンヂナビヤ諸國に依然として勢力を有つて居る、この間に處して勞農露國の「タツス」が縱横無盡に手を延ばし、通信即ち宣傳といふ觀念の下に活躍して居る。我邦の勢力は滿洲方面に多少有つと云ふに過ぎないので、支那にさへ日本の積極的通信政策といふのはない譯である。

尙ほ最後に有線通信網に對し、世界の強國は何れも無線電信の通信網を競争的に完成するやうになつたことは注目するに足るものである。今既設の國際無線電信局を掲げると次の如くである。

○ 英國所屬

位 置	局 名	使用電波長	對 手 局
埃及	カイロ	一〇、〇〇〇 一二、三〇〇	リーフイルド(英國)

米國所屬

ウエールス	カーナーヴオン	一四、二〇〇	マリオン(米國)
オックスフォード	リーフイルド	一三、〇〇〇 一五、五〇〇	カイロ(埃及)
西 印 度	アーエイ	一〇、一九〇	バルボア(中米)
桑 港	メーア・アイランド	一〇、〇〇〇	ヘーイア(布哇)
ニュージャーシー	ニューブランズ	一三、六〇〇 一五、〇〇〇	カーナーボン(英國)
ボストン	マリオン	一一、六二〇	サンタシーズ(巴里)
比 律 賓	キャビテ	一三、九〇〇	パールハーバー (布哇)
布 哇	パールハーバー	一一、〇九〇	キャビテ(マニラ)
布 哇	カフク	一六、三〇〇 一六、五七五	ボリナス(桑港)
ロングアイラン	ロッキンポイント	一六、四六五 一九、二〇〇	ナイルヴェーゼ(伯林)
太 洋 洲	グアム	一一、五〇〇 一三、九〇〇	キャビテ パールハーバー(比律賓)

二 通信網

ニュージャーシー タツカートン 一五、九〇〇
 一六、八〇〇
 桑 港 ポリナス 一三、三一〇
 カフク(布哇)
 メーリランド アナポリス 一七、一五〇
 リリー

佛國所屬

佛 國 ボルドウ 二三、四五〇
 一八、九四〇
 佛國殖民地(遠距離)
 同 (同)
 巴 里 サンタシース 一四、八〇〇
 一四、三〇〇
 西亞弗利加 パマコ 一、五〇〇
 ボルドウ(佛國)
 シ リ ア ベイルーズ 一〇、二〇〇
 サンタシース(巴里)
 マダカスカル タナナリヴ 一五、七五〇
 ボルドウ(佛國)
 伯 林 ナウエン 一八、〇〇〇
 一三、〇〇〇
 ロツキー
 ホイント(米國)

獨逸所屬

其他の諸國

ハノーバー アイルヴエーン 一四、六〇〇
 コラムヒル(米國)
 日 本 磐 城 一四、六〇〇
 一五、八〇〇
 日 本 巴 拉 奥 一〇、〇〇〇
 東京
 ロ ー マ コルタノ 一四、八〇〇
 一四、九七〇
 米國
 ノ 威 スタヴァンゲン 一二、一四〇
 タツカートン(米國)
 波 蘭 ワルソウ 一八、一五〇
 米國
 和 蘭 クートヴキーク 一二、五〇〇
 一六、八〇〇
 マニラ
 和 蘭 マラバール 一二、〇〇〇
 一五、〇〇〇
 クートヴキーク(和蘭)
 亞 爾 然 丁 ヴエノスアイレ 一六、八〇〇
 一五、〇〇〇
 サンターシー(佛國)
 支 那 北 京 一六、一五〇
 未定

無線通信網は海底線に比し、その建設費が甚だ少く且つその維持費が三割も

低廉であるが爲め、各國ともに海底線の建設より一轉して、無線電信の建造へ進むやうになつた、而して今では列強競ひて無線電信による制空計畫を立つるに至つた。それで波長協議の爲めに大正九年ワシントンにて國際電氣通信設備會議が行はれ、更に巴里に國際無線技術委員會の開催を見、續いて國際無線電信本會議にて決定することゝなつて居る。列強爭奪の中心は實に優良電波長の箇數の奪取である。既設の無線電信の經營方針は英國の半官半民の經營、米國、佛國、獨逸は民營、勞農露國は官營である。我邦に於ても十二年度以降五年計畫にて對歐大無線局を開設し、官營にて實行しやうと第四十六議會の協賛を経て着々と準備中であつたところ、財政緊縮に崇られ、豫定の方針を變へて半官半民となし、第五十議會に右に關する法律案を提出し可決されたので、大正十四年三月に日本無線電信株式會社法を公布し、同年七月に株式公募をなした、同會社は總資本金二千萬圓（政府は磐城無線電信局評價二百三十萬圓を以て出

資に代へた）で會社の事業計畫は、

- 一 對歐洲局 送信所を名古屋に設置し、受信所は四日市に設け、設計は七百五十キロの高周波電動發電機式、對手局は歐洲諸國の重要な局。
- 二 對米第二局 送信、受信所の設置地は未定、設計五百キロの高周波電動發電機式、對手局は米國のラヂオ、コーポレーション。
- 三 對南洋極東局 送信、受信所は未定、設計は三百キロの高周波電動發電機式（南洋通信用）千ロキの同式（極東通信用）對手局は印度、支那、西貢、瓜哇、ヒリッピン、英領印度、濠洲、西比利亞、支那（北京双橋局）等の諸局と受信。
- 四 磐城局 福島縣原ノ町に設置せられてる四百キロの高周式及電弧式、現在布哇局と交信、第二局完成後は加奈太、南米方面に使用する。
- 五 中央受信局 前記の送信局と連絡する受信局

以上の計畫は大體大正二十一年までに完成するのであるが、かゝる施設の出來た曉には、ニュース報道にも著しい進歩が見られるであらう、云はゞ全世界の距離が全く壓縮されて、無線電信により一瞬にして世界に於ける出來事を知ることが出来るのである。

三 私の特派員としての告白

私は大正八年十月にワシントンで開かれた、第一回の國際勞働會議に、特派員となつて、ワシントンで働いたこと、大正十年三月に皇太子殿下が御外遊相成るので、その報道任務の爲めに歐洲へ赴いたこと。大正十年十一月からワシントンに開かれた軍備縮少會議に出かけて、仕事をした、その三回の經驗によつて、私が得た失敗を告白し、最後に私の罪滅ばしを述べて、是から初めて特派員たんとする人々の参考に供したいし、特派員はどんなことをするのであ

らうといふことを知らない、一般の人々にも、『特電』はかゝる苦心によつて來るのだといふ内輪話をいたしたい。

私が時事の言はゞ留學生のやうになつて、大正八年四月に渡米して、ユタ州の極く物價の安い田舎で夏を過ごし、活きた英語を覚え、米國の事情にも通じねばならぬと日夜勉強して居た、するとその九月になつて本社から『ワシントンに行き、特派員として働くべし』といふ電報を受取つた、丁度十月下旬からワシントンで國際勞働會議が開かれるのである。私にとつては實に重い任務であり冒険でもある。それといふのは代表になつてくるのは私達の先生である鎌田先生、それに氣賀勘重、田中一貞、菊地武徳、窪田文三といふ人々、顔こそ知らぬが資本代表の武藤山治氏とても我々と縁の遠い人でないと考へれば、極く閑氣にも思はれるが、心中頗る不安でならないのは、自分が平生勞働問題を深く研究してなかつたことである。社としても私のやうな勞働問題を取扱つた

ことのないものを、その方面の仕事させよといふのも無理である。そこで私は労働問題の際物師となつてしまつた譯である。そこに私の他に對する競争上非常な弱味があつた。

ワシントンへついて、社の支給の餘りに貧弱なので、日本人のホテルに一室をかりた、而してにわかには會議で論じられる労働問題を調べ出したが、四月から十月まで日本に居らなかつた爲めに、どんな報道をしたならば、日本の讀者のセンセーションを起させるか、而して興味を起させるか、報道のポイントをどこに置いてよいやら見當がつかなかつた。私は米國に於て米國の産業不安を研究してしまつた、労働會議前までの私の準備は米國の雜誌、新聞紙、米國人とによつて、米國の側から見たる國際労働會議の研究をしてしまつたのである。こゝに私が取りかへしのつかぬ不覺の一因があつた。

それから會議の始まる前まで、にわかこしらへの労働問題の學究的研究者に

なつて、新聞紙の特派員といふ意識を失つてしまつた。かゝることは無經驗な特派員とか通信員に、必ずあり勝ちな傾向だと今でも思つてゐる。新聞記者といふことを忘れて學究のやうな心持になるのである。一室にとちこもつて會議の始まるといふ二三日前にウエスターン・ユニオンにやつと出かけて通信に關する手續を済すといふのん氣な仕打であつた。若し今の私ならワシントンへ着くや早速通信を取扱ふウエスターン・ユニオンへ行つて萬端な手續をなして開會を待ちあぐみ、豫報をどし／＼打つたであらうに、アノ時はそんな心持が起きなかつた。

要するにこの會議に働く私の缺點としては(一)通信及び電報を読む日本の讀者がどんなものを要求してるかといふことに無關心であつた。その爲めにニュースの選擇と價値の判斷を往々に誤るやうに思はれた(二)新聞紙の特派員といふことを何時の間にか忘れて、労働問題の學究的研究者になりすまし、ニュ

ースに對する感覺を失つてしまつた。是れは私が學校を卒業して僅か三年たつたのみであるから、こんな弊に陥り易かつたのではあるまいかと思つて居る。

勞働會議が開かれた、本會議はパン・パシフィック・ユニオンに於て開き、委員會はネビー・ビルデングに於て開かれる、日本の政府代表、資本代表、勞働代表等はワシントン・ホテルに宿をとつてる。私はこの四五箇所を毎日ぐる／＼と廻つた。大毎、大朝が特派員の五、六人の大がかりで働いて居る。時事としての競争紙はこの二つなのであるから、芝居がかりの兩新聞紙の特派員と、私のやうな特派員の經驗の今が始めだてといふものが、對峙してゐるのだから寧ろ冒險とも言はなければならぬ、自分でも後になつて、その當時を回想して、よく大したボロも出さずに過ぎたものだと思ふ。それに本社の方からは、電報がついてゐるのやら、その結果が如何なる反影を與へて居るか、善いのか悪いのか、悪かつたならばどう爲すべきか、ちつとも消息がない、本社

も寛大と申せば寛大であるし、怠慢と言へば怠慢と言へる、外國に出て仕事する人の心持ちになつて見るならば、時に悪いとか、善いとかの指示を與へる必要がある。餘りに放つて置かれるのも淋しいものであつた。

勞働會議のニュースは、聯合通信、合同通信によつて、日本へも相當報道された、それ故に會議の議事についての電報を、私が特電として打つたことは非常な浪費であつた、だから外國から特電を發するときには、外國通信社は大體どんなものを打つであらうかといふことを問合すとか、その暇のない場合は適當の判断をして重複せぬやうに心掛ける必要があると思ふ、氣轉をきかしたつもりで至急報の特電を打つたところが、同じものを聯合通信に打たれ、聯合通信の方が早いといふやうな結果を見て、随分と馬鹿な浪費をしてしまつたと悔ゆる譯である。そこで或新聞社の特派員は政府代表間の内輪揉だとか、田中孝子といふ婦人が委員會で椅子から下り落ちたとかいふ出来事即ち『三面種』の

みを探して打電してたものもあつたやうだ、然しそんなことだけは、私に到底出来なかつた。

勞働會議の閉會してから後に、私は何を主として特電として發したかを顧みた時に、そこに何の主眼點もなくて自分ながら慚愧に堪へなかつた、而して書いて送つた通信も會議中徹夜までして書いたのであるが、全く學究的な報告書のやうなものを書いてしまつた。

次に大正十年三月にわが皇太子殿下が歐洲へ御外遊に上らるゝといふので、歸朝してまもない私は再び外國行を命ぜられた。實はロンドン特派員として赴任することになつてたのである。私は皇太子殿下御外遊について、種々な困難に遭遇することであらうと豫期した。何となれば日本に居れば皇太子殿下の御顔をさへ容易に拜することも困難であるし、殊に最初の御旅立ちのことであることゝて、周囲の警固は極めて嚴重で、殿下の御行動を報道するのになか／＼

苦心が要るであらうと察し、それ故に先づその側近の人々と近かしくなる工夫が必要だと考へて、私は差當り供奉長の珍田伯、供奉員の西園寺八郎氏、二荒伯等にあてた紹介狀を懷中にした、それから私が電報を打つには是等の人々を通じて、皇太子殿下のあらせらるゝまゝの御姿を國民に報道しやうとの目標を立てた、而して殿下の御滞在になる所では、先づ第一に電報を發信する郵便局なり通信局の所在をたゞしてをかうとするの用心だけはついた。こゝまでは私の特派員としての仕事について準備行爲の感じであつた。

本社として私の活動に十分の保證をして呉れたその中でも、皇太子殿下の鶴駕の赴く所、何處にでも隨伴せよといふ命令であつたし、その爲めに莫大な旅費を自由に費ひ得るだけに與へたことである、かゝる場合には本社としても特派員を信賴して、一切の行動の自由と經費の相當の支出を認めねばならないと思ふ。

四月十五日に皇太子殿下の御召艦の『香取』と供奉艦の『鹿島』は、芽出度歐洲への入口であるスエズ運河に御安着になつた、私は軍艦より一步早くこの土地に到着して、御安着の報を本社に打電するの任務を持つてた、而してカイロへの行啓にも御随伴して遺憾なき報道をなさねばならない、私はスエズで始めて香取に乗艦し艦上に於ける殿下の御姿も拜した、それから紹介状によつて珍田伯、西園寺八郎氏、二荒伯、山本信次郎大佐といふ人々に面會したが、こんな土地で會つたことゝて、先方でも私に對する印象を強めたやうであつたし、御外遊中併びに今日でも是等の人々と懇親を重ねる因はこの時に端を發したのであつた、ロンドンで御迎へせすにスエズに上陸してお迎へして、側近の人々と會ひ、紹介状によつて先方に印象を残したことは、その後の仕事の上に少くない利益があつた、然しスエズ、ポルトサイド、カイロ等に於て私と競争の立場にあつたのは大毎の加藤直士、大朝の中平亮の兩君があつた。互に至急報と

普通新聞電報の打電に懸引を行つて居つた、三人が同時に郵便局にかけ込んで加藤、中平兩君が互に至急報の競争を開始して居る、私はそれを目前に見て居る。私の心理状態も競争といふことに刺戟されて至急報を打つ、大毎、大朝の競争に促されて、私はこゝでばかりでなく、皇太子殿下の御旅程中の各地に於て至急報を打つやうになつた。自分で無用だといふことを知りつゝ、非常に高價な至急報を濫發してしまつた。こゝに私には未だ特派員としての修養が不足であつたと後悔して居る、乃ち外國通信社例へば英領に於てはロイテルが勢力を張り専用線を持つて居る、それ故にロイテルの至急報と私達の至急報とは取扱ひと時間とに於て著しい相違があつたのである。それからロイテルの普通報と私達の普通報とに至つては、それこそ兎と龜との速度の相違があつた、その最も甚だしく私の知るやうになつたのはスコットランドの御旅行にお供をして各地から發した電報がロイテルよりも一週間位遅延したのであつて、移動通

信の任務の全行程を了した後にてその成績を檢覈して見て、私の發した特電が全く無意味になつて居るを知つて呆然自失してしまつた。私は大毎、大朝と競争して居るつもりでゐたのに、いづくんぞ知らんロイテルと競争し、全くロイテルにしてやられて、巨大の金を泥の中に棄て、しまつたのである。スエズ以來私がロイテルの電報速度の研究とロイテルの打電内容の考究を怠つたのは、皇太子殿下御外遊に隨伴して、の最大の失敗であつたと思ふ。

是れは極めて平凡の事のやうであるけれど、皇太子殿下御外遊の場合のやうに、ロンドン、ケンブリッジ、エジンバラ、マンチエスター、その他スコットランドの田舎の村といふやうな處から、巴里、ブラツセル、アムステルダム、ストラスブルグ、メツツ、更にチューロン、ナポリ、ローマと轉々移動して電報を發信する場合に於ては、先づ移動樞要地の遞信省又は通信局と東京本社との新聞電報特約の登録證なり或は特許證なりを所持することを忘れてはなら

ぬ。是れは日本を出發する前に遞信省を通じて各國の遞信省なり通信局なりに本社の電報略號及び特約を通過しておくのである、臨機の處置としては身分證明書を持參することも必要であるが、何よりも移動通信の時には豫め種々の準備をなしてをいて、いざといふ場合に無駄の時間をかけぬやうにすべきであらう、殊に歐洲各地の移動通信にはその國によつて言語を異にし、貨幣を異にし料金を異にして、種々の不便があつて思はぬ失敗やら損害を蒙ることがある、であるから成るべくならば、旅程につくに際して佛國、和蘭、白耳義、伊太利或は獨逸、瑞西、西班牙といふやうにその場合に應じて、その國の貨幣、郵便料金、電報料金を調べておくことが肝要である、皇太子殿下の御外遊に隨伴し言語の關係から、伊太利に於ての電報には、非常の無用の浪費をなし、中には行衛不明のものも少くなかつたやうであつた。

第一回國際勞働會議と云ひ、皇太子殿下の御外遊の報道と云ひ、何れも同じ

國人が報道の對象となつたり、或はニュース、ソースが日本人から得られ、而して日本の新聞記者同志の競争であつたが、軍備縮少のワシントン會議はニュース、ソースが内外人に亘り、新聞記者としての活動舞臺が世界的になつたのである、私は皇太子殿下の御歸航を伊太利のナポリにて御見送り申し、私の任務が一段落となつたので瑞西から獨逸に入り、伯林に十數日を送つて巴里に歸ると、本社よりワシントン會議が開かれるから、適當の時機を見て米國に赴くやうにとの電報であつた、私は丁度プラスセルに滞在中に私の父の死去の報をきいて悲しんだが、一任務の終らない間どうすることも出来ない。遠くから父の死を弔うて、活動を續けて居た。最初に米國に赴いて居る時に、愛くるしい女兒を失ひ、二度の旅行で父の死顔を見ることが出来ない、特派員として社命によつて遠く旅するものは、かやうな家庭的犠牲をどうしても忍ばねばならない譯である。

私は巴里から倫敦に戻り、専ら短時日にて英國の事情を調べやうと、英人の家庭に入つたり、ホテル住ひをして見たり、週末旅行を友人として愉快な日を過ごし、この間に私はワシントン會議に對する英、米、佛の輿論といふものそれから殊に英國の一般的傾向は、日英同盟をどうするつもりであらうかといふやうなことを調査して、本社へもそんな通信を送つて居た。日英同盟がどう始末されるかといふことが、ワシントン會議を通じて、私が何とか結論を早く知りたいものだ、又それに全力を傾けやうと肚を定めて居たのである。十月初めにロンドンから大西洋を越へて、ワシントンに赴くと社の伊藤正徳君が待ち構へて居た、何時も一人ぼちで仕事をしたり、旅をして居た揚句に、社の親しい人と、會つたのだから、氣が強くなつた、伊藤君がホテルの室までちやんとレザープして呉れてあつて、是からは會議の開會を待つばかりになつて居たのだからどんなにうれしかつたかわからない。

ワシントン會議に派遣された日本の記者は其數五十餘名、實に巴里會議に譲らざる盛況である、各國の新聞記者はと見るに、米國一流の各新聞社は多數腕利きの記者をワシントンに集め、支局員を増したりして陣容を作つて居た。ロンドン・タイムスは曩にノースクリフ卿に従つて渡米した主筆のステイード、記者のレーウエス等錚々たる人物である、佛蘭西、伊太利、西班牙、印度、濠洲、加奈太、支那等の新聞記者の集合地となり、世界記者の競争場裡に化したのであつた。

會議は始まつた。各國記者が唯一のニュース、ソースは各國全權との會見であつて、勿論本會議にはコンムニケが發表されたが、そんなものをあてにしてゐるものは一人もない、矢張各記者は各國全權との會見を重要視した、國務卿ヒューズは一日二回、ステート、デパートメントで各國記者團と面會し、時に重要なインホームেশョンを與へた、大統領ハーディングは金曜日と火曜日とに記

者團を引見して、その質疑に應酬した、たゞ米國の全權アンダーウッド及びロツヂは、餘り外國記者と會見しないで、米國の新聞記者と頻りに會見して便宜を與へて居た、更に佛蘭西の全權は、ウイラード、ホテルで時間の許す限り自由にも何時でも面會した、ブリアンやサロー等の全權が居ない時には、秘書總長ボンソーが代つて會見して呉れた。伊太利全權も毎日一回、ネビー、ビイルディングの事務所にて會見した、支那全權も月、水、金の午後三時から面會することになつて居る、日本は毎日午後六時にネビー、ビルディングの事務所又は大使館にて會見することになつた、加藤、徳川、埴原各全權がつとめて各國記者と會ふやうにしてた、英國はロイド、ジョージの親友で英國新聞社主協會長、ロード、リツデルが斡旋大に努めた、彼は全權でないが、全權と同じ権限を有つて、各國記者に會見し自由な立場からインホームেশョンを與へるなどは、流石は英國だと感心したのである。

かゝる國際的會議に於て、我々特派員の大に警戒すべきことは、各國が夫々自國の利益といふ立場からインホームेशनやステートメントを出すのであつて、うか／＼と乗せられると飛んでもないことになる、然しその宣傳の中にも重要なニュースが含まれることも注意し吟味する必要がある譯である、例へば英國側でロード、リッデルは大膽な露骨な宣傳役であつた。その雄辯な實例は、海軍に關する委員會に於て、佛國全權は日本以上に主力艦の勢力の要求をなしたし、潜水艦に對する要求の如きは、英國の全權を驚かすものがあつた、由來委員會の内容は、會の議題となつて居るものが、何かに纏らないまでは絶對秘密を遵守するの内約となつてあつたが、潜水艦に對する佛國の莫大な要求に遭遇するや、その委員會終了後にロード、リッデルは記者團と會見し、或記者から本問題に關聯する質問に接するや、恰かも待つてゐましたと云はん許りに、佛國の要求のすべてを暴露した、この時の光景を私は未だに眼の前に彷彿

とせしむることが出来るほどに、リッデルの口調は激越であつた。この事は直ちにロンドンに打電され、當然の歸趨として、英國の上下を擧げて、反對の聲が湧いた、『委員會の内容はある時機の間、絶對に秘密を嚴守すべき筈であるのに一體この始末を乍うして呉れる……』と怒出して佛國全權は抗議を申込んだが、英國全權は沈黙してた、大統領のハーディングも間に立つて弱つた。全權でない自由の立場にあるロード、リッデルばかりは凹むどころか意氣揚々として『委員會の内容が秘密にされてゐる位は、百も承知して居る、然し英國の新聞係である自分が、會議の精確なるインホームेशनを各國記者に與へることが任務と自覺して居るに拘はらず、記者團から問題に關する質問を受けたから當然の任務を行つたまでである』と逆襲の形であつた、然しそれ以來ロード、リッデルは會議の舞臺から颯々と退いて仕舞つた、是れも私が大に感心した事件の一つであつて、日本の全權一行の中のものなどでは到底行へない藝當であ

らう。

會議中に於て英國の新聞記者は議事のやうなことは一切通信社の報道に委して、専ら論評といふことに力を注いだ。米國の新聞記者は依然ニュース本位で新聞記者も通信記者も争ふて居た、日本の新聞記者は殆ど報道の競争に奔命したが、たゞ伊藤正徳君は論評と報道とを兩つながら行つて居た。私は専ら報道を擔任した、ところが會議中に二人の間で自ら銘々の考の下に或ポイントに精力が集中されるやうになつた。乃ち伊藤君はわが新聞界が有つ唯一の海軍通であるから、ニュース蒐集もこの方面に力が入つた、私は英國以來日英同盟の始末が頭にあつたから、こればかりを念頭に置いて活動した、報道といふ點でも成るべく通信社との重複を避け、言はゞ自主獨往といふ覺悟で働いた、それ故に今度の會議では、アソシエートプレスやユーナイテッド、プレスなど、競争するといふ馬鹿な仕打はしなかつた。

ワシントン會議に於て海軍に關する報道は、時事新報が最も精確にして迅速であつたのは、海軍に精通する最も適當なる人物を派遣したからであり、四國條約の締結を素破抜いて世界を驚かしたのも偶然とは申せ、豫め準備してか、つたものが當つたからである。私は四國條約を素破抜いたことについて、如何なる経過を以て、かゝる重大なるニュースを得たかを今日も將來も物語ることの自由を有つてない。假令、加藤全權が死んでしまつた今日でも、バルファア卿が死なうが、ヒューズが居なくとも、ブリアンがどうなつても、徳川公が世を去られても、私のニュース、ソースを話すことは出来ない、私は四國條約が締結されるまでの行程について、恐らく日本の全權の隨員でさへ知らない『秘密』を知つて居る、私は四國條約が作られるまでの外交回顧録を書くことが可能であるけれど、如何にして私の手に一切の秘密が握られてあるかは公表し得べきものでない、知るものは伊藤君と私とであり、もつと深い『謎』を秘めて居

るものは私の胸である。

要するに特派員として、最も大切な要件を、私の経験から申すならば(一) その場合に處する準備を十分にすること(二) 本國の讀者が最も強く興味するものに力を入れること(三) 外國通信社と競争することなく独自のニュースを蒐集すること(四) 油斷なく努力すること等である。尙ほワシントンに於ける伊藤君と私の仕事よりは、特派員として派遣さるゝ人々に、必ず有益な経験となるに相違ない、例へば電報を發する時間についての選擇、電話語の工夫、海底線と無線利用の選擇方法等詳しく述べれば限りないことなのである。

参考

新聞及新聞記者第三卷第二號 拙稿參照

第六章 新聞社の行政

一 新聞社の組織

新聞紙を日々發行する新聞社は一の世界である、その構成は人體と同じやうな有機的の組織なのである、日刊新聞社の最大なものは、新聞紙製作の爲めに二千五百名の従事員が晝夜に亘つて活動し、規模の小なる新聞社とても五百名を下るものは殆どない、現時の新聞社の組織を大別すると次の三部門に別れて居る。

一、編輯局

一、營業局

一、印刷局

一 新聞社の組織

然し新聞社によつては編輯局と營業局の二大部門となり、印刷局は工務部として營業局に屬するものもあれど、大勢は工務部が一個の技術局として獨立するの情勢がある。編輯局は新聞紙の「新聞人格」を表現する重大な部門であつて、論説、報道、編輯製作の事務を掌り、營業局は廣告及販賣等によつて新聞紙の經營を行ふものであり、印刷局は新聞紙の印刷製作の技術方面を擔當するものであつて、三部門は共に現代新聞紙製作上に於て缺くべからざるものであつて、三部門を通じて、最もシステマチックに優秀な人材の活用せられ、最良の機械の運轉せられて、完全なる新聞紙が製作せらるゝ譯である、新聞社組織に關する我邦に於ける典型の一として時事新報社の組織は次の如し。

一、編輯局

社説部

總編輯

政治部
 外報部
 經濟部
 社會部
 連絡部
 地方部
 繪畫係
 校正係
 寫真係
 圖書係
 庶務係

二、營業局

一 新聞社の組織

販賣部

市内係(社營專賣店)

地方係(地方專賣店)

郵送係

發送係

廣告部

内勤係

外交係

校正係

萬案内係

會計部

出納係

集金係

工務部

監理係

守衛係

活版係

印刷係

製版係

人事課

調査係

社會事業部

次に典型的の第二として大阪毎日新聞社の組織を見るに次の如し。

一、編輯局

一 新聞社の組織

論説課

内國通信部

社會部

經濟部

外國通信部

編纂課

調查課

中央聯絡部

整理部

政治課

支那課

校正課

運動課

航空課

東部聯絡部(東京)

西部聯絡部(門司)

二、營業局

販賣部

計算課

遞送課

廣告部

會計部

事業部

出版部

一 新聞社の組織

用度課

庶務部

秘書課

人事課

一、印刷部

活字場(邦文と英文に別る)

寫真場

印刷場

新聞印刷課

臨時物印刷課

グラヴェア印刷課

第三の典型として、米國に於ける最も代表的のものたる『紐育タイムス』の

組織を左に掲げる。

一、論説部 (Editorial Department)

主 事

論説部員

一、報道部 (News Department)

編輯長

同次長

晝間編輯長

社會部長

同次長

夜間社會部長

同次長

一 新聞社の組織

電信通信部長

同次長

整理部長

同次長

調査部長

日曜版部長

運動係長

寫真附録係長

繪畫係長

演藝部長

經濟部長

商況係主任

不動産係主任

新刊紹介係長

ニュース、インデックス係主任

論說インデックス係主任

一、工場部

校正係

植字係

鉛版係

寫真製版係

印刷係

機械係

一、營業部

一 新聞社の組織

廣告部

會計部

編編會計部

發送部

萬案内廣告係

現金出納係

用度係

機械監督

歐米及我邦に於ける最大の新聞社は、叙上の組織實例によつても殆ど類似して居る、たゞ歐米殊に米國に於ける新聞社にして朝夕刊を發行するものは、全く編輯局員及び記者を二分して居る、それから我邦の六大新聞社のやうに讀者吸收策を講ずる爲めの社會事業部又は規劃部なるものは殆ど無い。所謂校正部

又は係は我邦にては編輯局に屬するも、外國に於ては概して工場部のコムボー
ジング、ルームの隣りにブルーフ、リーディング、デパートメントが置かれて
居る、要するに新聞紙が發達すればする程に新聞社の組織に分化作用が行はれ
るやうになる

先づ編輯局に就いて見るに、論說部は形式的に同局の中に含有せられるけれ
ど、實質に於て全く獨立すべきものである、社によつては編輯局長の節制の下
に置かれ、或社は編輯局長と對立するものもある、編輯局長は編輯各部、及び
係を統制し重大な編輯上の方針を獨創して紙面に新工夫を凝らし各部又は他局
との連絡を圓滑にしてゆく技倆が必要である、編輯局長は新聞社の社長又は會
社に對し直接責任を有するものである、總編輯又は整理部の任務は政治部、外
報部、經濟部から集まつた記事原稿を整頓するのであるが、新聞紙をメーク、
アップする役割だけあつて、紙面全體の體裁、見出の書方、記事の選擇、寫眞

の調和、漫画の適否、鑑別を短い時間に決断して製作する技倆がなければならぬ。されば編輯者には事件に對する理解と一種の藝術的の獨創心とが必要であり、仕事に對し緻密を要し、冷靜であり、決断心が必要なのである。『紐育グロープ』の社長チャーン、ローヂャースは、米國の新聞紙百種の中にて六十パーセントの成功せる共通點を調査した結果、新聞紙製作者は次の十五項につき十分注意すべしと言ふて居る。即ち

- 一、第一頁の外観。
- 二、全頁の編輯振り。
- 三、論説の獨立自由なること。
- 四、特色を有つニュース。
- 五、愛國心。
- 六、人情味の豊かなもの。

- 七、インホームーション、デパートメント。
- 八、紙面の建設的獨創心。
- 九、家庭向き記事。
- 十、兒童に關する記事。
- 十一、財政金融に關する記事。
- 十二、廣告主に對するポリシーの考慮。
- 十三、廣告主への奉仕。
- 十四、廣告を助成する工夫。
- 十五、他社との協調を忠實に行ふこと。

ローヂャースは(一)は朝刊新聞紙で『紐育タイムス』、夕刊新聞紙で『市俄古デーリー・ニュース』が代表的のものであり、(四)の特長は『市俄古トリブユーン』が第一であり、(十一)の傑出せるものは『紐育タイムス』であると評し

て居る、我邦に於ても重要頁の特色、全體の頁の體裁等は、新聞紙製作の死活を制するものと言ふてよいのである。

ニュース報道を主要任務とする各部の部長は、朝夕刊を有するものは、先づ兩者に對し記事報道に對する方針輪廓を考慮し、『明日の紙面にては何を重要記事とするか』といふ計畫を立てる心掛が必要である。而して外勤記者を配備し又は部署に就ける記者を連絡統制することが必要なのである。部長の職務は

- 一、ニュース、ソースとなる場所に必ず外勤記者を配備する、或種の問題が突發した場合には直に之に對應する處置を敏速に講ずる。
- 二、豫備の内勤記者を有つて、突發事變に備へる。
- 三、通信社から來る通信に對し、誤りない選擇を爲し、通信によつて重大な暗示を得た場合は、即刻外勤記者の活動を促す。
- 四、各方面の主要人物に親交を結び、重大事件に對し、部長自身が眞偽を質

し且つ判斷し得るの用意が必要である。

五、ニュースは他の競争新聞紙よりも『早く』且つ『精確』であることを期す。

各部長の仕事の成功するや否やは、(一)その部に屬する外勤、内勤記者の素質の劣等なるもの多い時は、競争新聞紙に對し不利の地位に起たねばならない第一線に配備するには優秀なる主力艦と優秀なる補助艦艇を有たねばならぬ、

(二)外勤内勤記者の人員に不足ある場合には、ニュース・ソースの複雑化し廣汎になつた今日に於て不利な足場に起つ、(三)部長にして前記の職務を完全に遂行する能力のない場合は新聞紙を失敗に導く因となる。部長は優良な熟練せる記者を部下に常備し、未熟練の記者がある時は、よく職業的訓練を與へねばならぬ、部長はクイック・シンカーであつて、冷靜に事件に對する批判をなす心掛が必要なのである。政治部は各官廳、各政黨が主なニュース・ソースになつて

居り、外報部は外務省又は海外よりの電報通信をニュース・ソースになし、經濟部は各會社、株式取引所、各銀行がそのニュース・ソースとなり、社會部は警視廳、裁判所等が特定のニュース・ソースであるけれども、社會部は何時、如何なる場所に、如何なる重大事件が突發するか豫想されないから内勤豫備人員を置く必要があり、東京市内には市内通信員を配置してをく、地方部は各地方支局と各地方の通信員との連絡を行ひ、地方版の編輯をなし、本紙版には地方の重大事件を提供する、時事新報社の聯絡部は東京大阪の通信聯絡を任務とするのみでなく、各地方からの電話、電報等による聯絡を行ふて通信網の中樞をなして居る。こゝには多數の熟練せる速記者を常備して居る。繪畫部は時事漫畫の外に數名の畫家が居てカットやら意匠やらを作つて提供する。校正係は最も大切な任務のある所で編輯直屬の重大な機關である、熟練した校正係員が多いだけ紙面に於ける誤字誤植を防止することが出来る。印刷に附せられてから誤植の

多い程不快極まるものはない。夫故にこの係は記者と同一學力若くはそれ以上の學識經驗の所有者を有つことが必要である。この係の重大な價值を知りつ、多くの新聞社がコピー・リーダーを慎重に選擇しない通弊がある。寫眞係の係長は數名のスタッフを有ち、日々の出來事を撮影して之を紙面に提供する、新聞寫眞は藝術寫眞でない、一個のニュースでなければならぬ、その日の重大出來事を『書くニュース』と『寫されたニュース』とで表現報道するのである。デーリー・メールや寫眞を主とする小型新聞紙では、寫眞係の非常な多數を必要とする、今日では寫眞屋でない『寫眞記者』になつた。圖書係はロンドン・タイムス又はニューヨーク・タイムスの如きは、大規模の組織をなして居るが、我邦に於ては概して發達してない、新聞社内に圖書館が必要であり、インデックスの専任係が必要であり、専門的な新刊紹介の記者を置かねばならぬ。新聞社の調査課と相俟つて是非とも完備せしむべき特殊な機關なのである。

營業局について見るに營業局長は、編輯局長と相並んで經營上の責任者である。歐米に於ては營業局長を、編輯局長以上に高俸を以て優遇し、その新聞紙のビジネス一切を管掌せしめて居る、新聞社の浮沈は、營業局長の材幹如何にかゝると言ふても過言でない。販賣部は販賣部長の統制の下に市内販賣係（或は監理部）地方販賣係、發送係、郵送係（或は遞送係）の各主任を置いて、製作せられたる新聞紙を賣り込むのである。市内販賣店には夫々配達人を讀者の數に應じて雇ひ、配達人の多きものは千餘名に上るものもある。地方販賣係には外勤と内勤の係員があつて、絶えず新讀者の開拓に當つて居る。東京には新聞輸送同盟なるものがあつて、各新聞社は鐵道省各汽船會社に對し同一行動を協定し、輸送上に特別な便宜を享受して居る。廣告部は現代新聞經營の中樞部であつて、新聞社の財源である。それだけ廣告部長は敏腕經驗、學識の所有者でなければならぬ、内勤、外交の係員をよく督勵して、廣告主の開拓を行はし

めねばならぬ、「クラシファイド・アドバタイジング」(よろず案内廣告)は最も有利な又最も公衆と關係の深い廣告である、我邦では時事新報が最も早くこの廣告に著眼して掲載し、一時は時事新報のみの獨占的のもの、やうであつたが、關東大震災以後東京日々、東京朝日、報知新聞、都新聞等は非常な競争を以てこのクラシファイド、アドバタイジングの爭奪を開始し、相當分量を掲載するやうになつた、會計部は新聞社の現金、物品の出納、集金、購入等の事務を管掌する。次に工務部又は印刷局は、新聞紙の機械的部面を取扱ふもので最後の仕上をなす所である。工務作業は活版、印刷、鉛版、鑄造、製版の各課或は係があり、活版係には文選、植字、解版の各分擔の職工が働き、印刷係には電気、機械、運轉の各技術の技手が働き、鉛版係には紙型、鉛版の製作工が働き、鑄造係には活字鑄造、モノタイプ、ルラ鑄造の専門職工が働き、製版係には寫眞製版、凸版製版、グラビヤ製版の技工が働いて居る、新聞紙製作に於

て最も驚くべき發達を遂げたのは、新聞印刷に關する機械器具の發明完成と相俟つて印刷部の發達なのである。故に最新機械を使用すると共にこの部面にも熟練職工の充實が最も必要であつて能率に非常に大きな關係を有つのである。

新聞社の組織は大體叙上の通りであつて、人體に於ける神經組織にも似たものである、新聞社の各部面の發達は、あらゆる方面に神經系統が分布されて、悉く脈絡相關聯したものである。偉大なこの組織體を運用する機關としては、第一に編輯、營業の一切を審議して經營方針を決定執行するものに重役會なるものがある。それ故に重役は概ね主筆各局の主任者が選ばれる、編輯局には編輯局會議があつて各部、各係、各課の主任者が會議して編輯事務に關する打合せをなし決定事項を執行する、各部には夫々部會なるものがあつて、各部員會合して活動上の打合をなす、營業局にも營業局會議があり、更に所屬各部の部會が開かれるのである、かゝる各種の會議機關の存在は、新聞紙製作上の聯絡

統一に於て缺くべからざるものなのである。

二 新聞社の經營

新聞社の經營に於て、編輯局と營業局とは、仕事の性質に著しい相違があるけれど、終局の目的は、全く一致して居る。論說記者及び外勤記者は最良のニュースを獲得して、ニュースの解説批判を試み、編輯者は最良の紙面を作り上げる、營業局の各方面では、最良の新聞紙を多數の讀者に讀ましめ、且つ最良の新聞紙を作り出さしめる爲めの資源を創造してゆくのである。兩者は鳥の双翼の如く、最良の新聞紙を製出することには、その目的を一にして居る。現代新聞紙は一箇の企業になつた以上、新聞紙の發行者又は發行する會社は、營業的方面に於て(一)適當な系統組織を構成せねばならぬ、實際に今日の新聞紙は、この系統組織の表現そのものである、(二)次に商業上の利益を得る爲め

に紙面を廣告者に賣らねばならない、(三) 新聞紙を製作する爲めに生産業者と同じく原料、勞働、管理の諸問題を處理しなければならない、(四) 最後に印刷せられたる新聞紙を市場に販賣しなければならぬ、元來新聞紙の業務は、小賣業の性質でなくして、寧ろ製造卸賣の性質のものである。乃ち地方の新聞紙を除く大都會の新聞紙は、悉く新聞販賣業者の手を経て所謂卸値段にて賣られるものであつて、新聞社直接の小賣は極めて小部分なのである、たゞ我邦に於ては販賣方法に於て特殊の發達をなし、新聞社自身が專賣店を所有して販賣するのを有利だとして居る。それにしても讀者に本社直接を以て賣るといふことは殆ど稀なのである。

新聞紙はその製作から販賣するに至るまで、殆どその全過程に於て、他の新聞紙と競争状態にあること、一般の製造業者と少しの變りもない、寧ろそれよりも甚しいものがある、新聞社の販賣部は、他の競争紙の地盤侵略に對し、何

時も擁護する必要あるのみか、他の新聞紙の地盤を侵略することもあるし、全く未開發の地に販路を擴張することに苦心を凝さねばならない、それが爲めに新聞紙の發行増加策として種々の方法が行はれる。

(一) 賣捌店の増設、(二) 紙數賣込みの奨励金、(三) 定價よりの引下げ、(四) 無代紙の配達。

等の方法を用ふる一方に社會事業部、企劃部など、稱して種々の社會的計畫を立て、講演會、音樂會、觀劇會、遊覽會、運動會、巡回病院、巡回圖書館、博覽會、品評會等の事業を行ふて間接に讀者の増加を圖るに努めるのである。

然しながら米國の最も進歩せる新聞社では「人下の部數増加策は、鑛山採掘に投資するのと等しい不自然の政策である」と稱し、次第にかゝる催物は廢されてゆくのである、事實に於て新聞紙の經營に於て成功するのは、ニュース・サーピスへの投資より外にない、歐洲大戰に際し米國の各新聞社は擧つて歐洲に特

派員を派遣し、その數四十餘名に上つたと云はれる、而して『シカゴ・デーリー・ニュース』のローソンの特別なる通信は、之によつて實に十萬の發行部數を増加せしめ二十萬弗の收入に値したのである、同じローソンの通信を掲載した『紐育グローブ』も五ヶ月間に五萬の讀者を得たのであつた。時事新報が華府會議に於て四國條約を逸早く報道し、且つ優秀な海軍記事の通信は八萬の發行部數を増加せしめて居る。之によつて見ても特色あるニュースの報道は、讀者を得るの唯一の道であると申さねばならぬ、それ故に新聞紙の讀者奉仕とはニュース・サービスを言ふのである、ニュース・サービスとは新聞紙が最良のニュースを日々報道するに怠たらぬことを意味して、最良な精確なニュースを報道するには、自ら最良な新聞記者を有たねばならぬ、新聞紙發達の初期には新聞記者は政黨政派の召使の如くに政治家の政見を聞いて民衆に反響を促した喇叭卒のやうなものであつた、然るに第二期に入つてから論說記者の中心時代で

あつた、新聞紙は論說記者の善い惡いによつて發行部數が増減した。その記者は自己の意見を發表して、大多數の民衆を指導しやうと勉めた。然るに第三期の今日に於ける論說記者は、個人人格を離れて『新聞人格』を築き上げるの時代に移つた、新聞紙の社説なるものは、誰が何を言ふて居るか、誰が何を唱へて居るかでなくなつて、何々新聞は如何なることを述べて居るかといふことになつた、夫故に個人の論說記者が自由勝手に論說を書くといふのでなくて、論說記者は社の經營方針をもよく打算して、社論を書くといふことになつたのである、然しながら新聞社が論說記者に人格學識の卓越せるものを用ふることの必要なのは、論說中心時代と今日に於ても何等異なる所がない、英國及び米國にての一流の論說記者は一年五萬圓を受くるものもあり、二萬圓をとるものは敢て稀でない。ニュースが新聞紙の發行部數を増加する上に重大な要素であるから、新聞社はリポーターに優秀な人物を網羅する必要がある、優秀な記者を有

つこと自身が、新聞社の大切な資本なのである。かくて優良な記者を養成する新聞社は一種の投資を行ふと選ぶ所がないと思ふ。今日米國の新聞紙界が盛觀を呈するに至つたことは、新聞經營者が夙に優良な記者を所有して活用した所にある。ゼームス・ゴルドン・ペンネットが五百弗で『紐育ヘラルド』を創刊し僅か十五ヶ月にして五千弗の價值ある新聞紙に成功せしめたのも、ジョセフ・ブリツァーが負債山積に苦しむ『紐育ウオード』を買収して、忽ちに隆盛を致さしめたのも、チャールレス及びヤングなる貧乏な二少年が、五十年前に一新聞紙を創刊して、今日の『桑港クロニクル』を作つたのも、アルデル・ゼー・ブレセンが『シヤトル・タイムス』をして今日あらしめたのも、ウィリアム・ハーストが父業を繼いで、現在のハースト王國を築いたのも、英國に於て『ロンドン・タイムス』の信用も、『デーリーリールメール』の百萬部の突破も、悉くニューズ・サービスに主力を注いで、讀者奉仕第一の結果に外ならないのである。米國に於て

優良なレポーターの爭奪はかくして起り、ゼームス・クリールマンの如き年俸十萬弗を受けて居るものさへある。讀者への奉仕に於てニューズ・サービスの第一義なのは以上述べた通りであるが、販賣部が讀者に對して迅速に規則的に親切に配達することも、讀者奉仕の一であつて、我邦の如き特殊なる配達制度の發達した國に於ては、發行部數の増減が、この配達のよろしきを得るや否やによつて決せらるゝ場合が少くない。されば各新聞社はこの配達方法について一通りならぬ苦心を凝らして居る譯である。

我が國の新聞紙經營の最も大きな弊害は、各新聞紙の販賣上に於ける無謀な競争即ち濫賣の實行である。殊に東京に於ける如く對等の勢力に起つ新聞紙が多く存する場所にては、新聞紙の經營が比較的困難である、是れ言ふまでもなく互に激甚の競争の結果、定價販賣政策を放棄して、無用な經費を浪費するからである、大阪の大毎、大朝、名古屋の新愛知、北海道の北海タイムス其他小

都會に於ける新聞紙の經營のや、樂なのは、定價販賣の維持がその一因と認められる、然るに東京の新聞紙の經營難に陥つてゐる者の多きは、實に濫賣の餘弊であるから、新聞紙の競争の『常道』に引戻すには、定價販賣の實行に依らねばならぬ、東京朝日新聞と東京日々新聞とは大阪の兩本社に倣つて、大正十三年に定價販賣の協定を作成したのである。出来るならば東京全新聞社が一日も速に『定價販賣協定』を作成して、新聞紙本來のニュースの競争に復歸しなければ、永久に經營難を免れないと信せられるのである。

新聞紙は勿論發行部數の増大を期さねばならない、發行部數は廣告率の決定にも關係あるし、新聞紙の勢力の基礎なのである、然し新聞紙の經營上から言へば、新聞紙の讀者階級を浮動性の多い方面に求めるよりも、固定性の方面に開拓する必要がある。乃ち讀者を銀行會社員、官吏、學者、一般堅實なる商人の階級に有つことは、小商人、自由労働者に讀まれるよりも確實である譯であ

る。それ故に販賣部長及び部員は、新聞紙の賣込む市場をよく調査して知る必要がある、漫然と市場を開拓するよりも、その新聞紙の特長を熟知して、その新聞紙を愛好しさうな或階級を想定讀者階級として開拓すべきが有利であるまいか、『紐育グローブ』の社長ローヂャースは、その販賣政策を次の如く述べて居る。

『グローブ』の財産は、『グローブ』を規則正しく購讀する市民及び『グローブ』に對し信用を有たる、人々を指すのである、『グローブ』の廣告主は、何時でも『發行部數検査課』に問合せ、新聞紙の發行部數の調査報告を求めることが出来る、今日の新聞紙が散漫なる方法を以て、徒に廣汎の土地に賣るといふ愚は廢止すべきである、新聞紙を徒に多く賣らんとするのは馬鹿な道樂である、濫賣するより、必ず買つて讀まうとする或種の階級に販賣を集中することになつて居る、故に『グローブ』の讀者を、セン

セーショナルな記事を読んだり、大袈裟な標題だけを讀むやうな方面に求めずして、新聞紙に印刷せられた記事及廣告を信用する階級の人々に求めることに努力して居る。我が利益及繁榮は、實に無用な浪費を棄てた所にあり、無用の費用を投ずることは、一面廣告主に高率な廣告料金を徴することになるのである*。

ローチャースの言は我が邦の、新聞販賣政策に於ても、大に味ふべきものがあると信ずる。

營業局に於ける廣告部の地位は、極めて重要なものであつて、新聞紙の収入の四分の三が廣告より來り、四分の一が新聞紙販賣より生ずるが最も有利な成功した新聞紙の營業成績だと言はれて居る。之が爲め米國の新聞社に於て廣告部長中に年俸三萬弗を得るものも少なくなく、營業局長兼廣告部長は年俸十萬弗を受くるものもある。如何に其地位が尊重せられて居るか察するに難くないと

* Jason Rogers. Newspaper Building 256—257

思ふ、新聞紙は最も進歩した廣告機關の一たること言ふまでもない、新聞紙は二十四時間中に國の内外に起つた、あらゆるニュースを報告するのみでなくて市場に新に賣出されんとする商品のインホームーションを與ふる機關なのである、夫故に新聞社は紙面を廣告主に賣らねばならない、かくて新聞紙は一面に於てニュースを賣り、他面に於て紙面を賣るものである。

新聞紙の發行部數は、廣告するものにとつては、是非とも調査すべきものである、有効に新聞紙廣告をしようとするものは、發行部數とその讀者階級を知ることが必要であらう、我邦では發行部數を秘密にすべきものとの陋見が今でも行はれて居る。それは若し眞實に發行部數を發表すると、廣告が減るだらうと恐れるからである。米國に於ける新聞社は、常に其發行部數を發表し、或は廣告主の要求ある時は、喜んで發行部數を報告するのを義務と心得て居る。エヌ・ワイ・エーヤール會社の『米國新聞總覽』は、米國に於ける新聞紙發行部數を

知る最も善いものであつて、各新聞社は責任を以て同社に掲載を依頼するやうになつてゐる、近年『米國廣告主協會』は、自ら調査部を設けて、常に各新聞紙及雜誌の發行部数を調査してその會員に配布しつゝあつた。最近には發行者、廣告取次業者、廣告主の三者より代表者を選出して『發行部數調査局』 "Audit Bureau of Circulations" を組織するやうになつた。

抑々新聞紙の自然的發行部數といふのは、新聞紙を豫約して讀むもの、或は毎日必ず買つて讀まれるといふ部数を指して言ふのであつて、新聞社は自然的發行部數で満足するものでない、絶えず發行部數の膨脹を圖る必要がある。それと言ふのも新聞社が廣告主に賣るべき物品なるものは、更に具體的に言へば發行部數を賣る譯なのである、こゝに於て廣告部と販賣部は離れ難い關係に立つて居る。

我が日本に於ける新聞事業が、廣告販賣兩部面から如何ばかりの収益を上げ

つゝあるか、先づ販賣に關しては、用紙の消費量を基本にして推定するに、大正十三年十二月以前の全國新聞用紙需要量は、一ヶ月二千五百萬ポンドであり大正十四年に入つて一割方の増紙を見、二千七百五十餘萬ポンドを消費するやうになつた、最近五年間の用紙消費量は毎年一割の増加率を示し部數に於ても約一割の増加と見て差支なく、實收も亦一割を増した譯なのである。この推定から日本の全新聞紙の販賣收入は一ヶ年約四千萬圓を上下しつゝある、一方廣告年收は約四千五百萬圓と見られ、その他の雜收入を加へて日本の新聞紙事業は總年收額約一億圓に近いと稱せられて居る*。

尙ほ米國に於ける新聞紙廣告と販賣の發達は、到底我邦の比すべくもない、『紐育タイムス』は廣告が紙面の五割八分を占め、『紐育ウォールド』は五割二分、『イヴニング・ジャーナル』が五割四分を占めて居る、一千九百二十四年の全米新聞紙中主なる朝刊新聞二百二十八、夕刊新聞六百五十五、日曜新聞二百

* 日本新聞年鑑

八十九に就て「エヂター・エンド・パブリツシャー」の調査によれば、前記諸紙の掲載廣告行數總計五十億五千八百七十萬五千五百八行であつてその廣告料金比に六億四千二百萬弗に上つて居る、我邦の全新聞紙の廣告販賣の總年收額に實してさへ六倍以上に達して居るのである。

新聞社の行政作用の一として、新聞社の經營豫算の編成は、甚だ必要なことであつて、新聞社の財政はとかく紊亂し勝なものであるから、各部門の收入支出を明白にして、各部門の經費に標準を定めて置くのは寧ろ當然な仕事である。豫算制度のない國家が無節制なる浪費を行ふやうに、豫算制度のない新聞社は不必要の濫費を大ならしめる、豫算表は重役會のみで作成しても差支ないが、最も進歩的な新聞社は、實務執行の責任のある機關によつて豫算表を作らしむべきものである、新聞社の歳入豫算は、國家のそれと同じく歳出豫算を決定する標準となる、歳入を測つてから出づるを定めねばならない、新聞社の豫

算にも、總豫算、特別會計の形式で定めてをき、避くべからざる豫算の不足を補ふ爲めに豫備費を保有する必要がある。豫算制度と相並んで肝要なのは、各部門の能率調査の見地から「生産費表」^{コスト・パー・セント}の作成は最も大切なこと、思ふ。「紐育グローブ」の社長ローチャースは、新聞社の最も景氣の好い時代に於て過度に經費の膨脹を防ぐの目的から「經費致命線の説」^{The Dead Line Theory of Expense}*を唱へ、新聞社の各部門の濫費防止の方法を述べて居る、新聞社は一時の好況に遭遇すると忽ち編輯營業の兩局に於て不知不識の間に經費の増大を促し、却て容易ならざる損失を自から招くことがある。茲に於てローチャースは、各部門の膨脹の限界線を設定し、各部門の製作又は作業の原價をよく調査し限界線を超えたものを致命線となして支出の絶對中止の必要を説いて居る、彼の説は多年の新聞社經驗の結果によるもので、我が新聞社經營に對し多大の指針を示して居る所が少くないと思ふ。

* Jason Rogers. Newspaper Building p. 271—273

新聞社の経営の初期は、概ね個人が創立し経営して居た、而して餘り経営が樂でなかつた、それが爲めに「新聞紙業は損するものだ」といふ思想を生ましめたのは、個人が政論本位の新聞紙経営を行ふた時代であつた、然るに現代の新聞紙業は堅實な讀者階級と有力な廣告主とを有つならば「必ず利益する企業」となつた、資本家が豊富なる資力を投じ、優秀な人物を新聞社に用ふるならば之れほど確實な投資はない譯である。こゝに大資本の新聞社が出現し、或は大資本の下の「シンデケート」又は「トラスト」経営が行はるゝやうになつた。新聞紙業トラストの最も偉大な成功者はウィリアム・ランドルフ・ハーストであつて、彼の支配經營せる新聞紙、雜誌、通信社を掲ぐれば次の如し。

新聞紙

ニューヨーク・アメリカン(ダブリュー・ジー・ブライアン名義)
ワシントン・タイムス(イト・デー・ショー名義)

シカゴ・ヘラルド・エンド・エキザミナー
サンフランシスコ・エキザミナー(エム・デー・ハント名義)
ニューヨーク・エビニング・ヂャーナール(ジュー・シー・デートン名義)
ロスアンゼルス・エキザミナー
ポストン・アメリカン(イー・エー・ウエストホール名義)
シカゴ・エビニング・アメリカン(ハーマン・ブラツク名義)
シヤトル・ポストインテリヂェンサー
ワシントン・ヘラルド
ホート・ウォース・レコード
デトロイド・タイムス
バルチモアー・アメリカン
ミルウォーキー・ウイスクンシン・ニュース

アトランタ・デフォルヂアン
オークランド・ポストエンクアイヤー
シラキユース・エビニング・テレグラム
バルチモアー・ニュース
ミラー

雑誌

コスモポリタン・マガジン
モーター
モーター・ボート
グード・ハウスキーピング
ハーバース・パザ
オーチャード・エンド・ファーム

ハースト・マガジン

インターナショナル・マガジン會社

写真、フイーチュアー、ニュース通信社

インターナショナル・フィルム・サービス
インターナショナル・フイーチュアー・サービス
インターナショナル・ニュース・サービス

乃ちハーストは實に全米各都市の新聞紙、雑誌の多數を支配し、その經營する寫眞、フイーチュアー、及びニュースの供給機關はハースト新聞紙に送られるのみか、他の新聞社へも賣られるのである。一つのニュースが全ハースト新聞紙に掲げられ、一つの寫眞が全ハースト新聞紙に利用せらるゝのであつて、高價なニュースが一つの新聞紙で滅失してしまうのでない、一つのニュース原價は、それ故にハースト新聞紙に於て極めて低廉になる、我邦の新聞社が、ニ

ユース報道に多額の原價を要するに拘はらず、その新聞紙のみの使用で棄てらるゝといふことは、甚だしい損失と言はねばならぬ。

ハーストに次いでトラスト經營の大なるものは、エドワード・ウイリス・スクリップスとロイ・ウイilson・ハワードの共同企業によるもので其主なるもの次の如し。

アークロン・プレツス

バルチモアー・ポスト

バーミンガム・ポスト

シンシナチ・ポスト

クリーブランド・プレツス

コロンプス・シチヅン

デス・モインス・ニューズ

デンバー・エキस्पレツス

エル・パソ・ポスト

エバンスビル・プレツス

ホート・ウオース・プレツス

インディアナポリス・タイムス

ノツクスビル・ニューズ

ロスアンゼルス・レコード

メンフェイス・プレツス

ノーホーク・ポスト

オクラホマ・シチー・ニューズ

ピッツバーク・プレツス

ポートランド・ニューズ

二 新聞社の經營

サンフランシスコ・デーリー・ニュース
サクラメント・スター
サンデーゴ・サン
シヤトル・スター
スポーケン・プレツス
タコマ・タイムス
トレド・ニュース・ビー
トレー・ホート・ポスト
ヤングストン・テレグラム
ワシントン・デーリー・ニュース
デトロイドのラルフ・ハーマン・ブースは『ゼ・ブース・パブリッシング、コン
パニー』を起して多くの地方新聞紙のトラスト経営を行ふて居る。その主なる

ものを擧ぐれば次の如し。

アン・アーボアー・タイムス・ニュース
ペー・シチー・タイムス・トリユーブユン
フリント・デーリー・チャーターナル
グラント・ラビッツ・プレツス
チャクソン・シチズン・パトリオット
カラマゾー・ガゼット
マスケゴン・クロニツクル
サギノー・ニュース・カーリアー

尙ほ『紐育ウオード』のラルフ・ブリツアーは『セントルイス・ポスト・デス
パツチ』を經營し『ヒイラデルフィヤ・パブリック・レッツチャー』のサイラス・
カーチスは『紐育イヴニング・ポスト』週刊雑誌の『サタデー・イヴニング・ボス

ト「レデース・ホーム・チャイナル」カントリー・セントルマン」を發行し、「シカゴトリビューン」のマツコーミツクは、紐育に於て「ニュース」を發行して居る。

更に新聞紙を創刊し、或は他新聞紙を合併又は買収し且つ讓渡する方法によつて成功せるものにフランク・エー・マンシーがある。彼の仕方は全くの新聞紙業の投機的賣買なのであつて、彼が新聞紙賣買の年月を示すと左の如し。

新聞名	創刊	買収	讓渡
ニューヨーク・スター		一八九〇年	一八九〇年
ニューヨーク・デーリー・ニュース		一九〇一年	一九〇四年
ワシントン・タイムス		一九〇一年	一九一七年
ボストン・チャイナル		一九〇二年	一九一三年
フィラデルヒヤ・タイムス	一九〇八年		一九一四年

バルチモアー・ニュース	一九〇八年		
ニューヨーク・プレッス	一九一二年		一九一六年
ニューヨーク・サン	一九一六年		
ニューヨーク・イビニング・サン	一九一六年		
ニューヨーク・ヘラルド	一九二〇年		
ニューヨーク・テレグラム	一九二〇年		
巴里版(ニューヨーク・ヘラルド)	一九二〇年		

英國に於ては、ハームウォース系新聞紙「Harmworth Interest」とベリー系新聞紙「The Berry Group」の兩系が一大資本の下に經營せられて居ること(『自由新聞の運動』参照)既に述べた通りである。

新聞紙事業の資本化及びトラストが、新聞紙の本來の天職を汚し、その偉大な力によつて民衆の低劣な感覺を満足せしむることに努めたり、國際間に於て

「戦争製造者」になつたりするならば、産業上に於ける反トラスト運動が起つた如くに、新聞トラストにも必ず反トラスト運動が勃發せねばならぬこと、思ふ、今日我邦には未だ新聞トラストの出現を見るに至らないけれども、大新聞紙が企業合同の利益であることを看取して、その氣運にあることを認めることが出来る。

新聞社の経費の主なるものには、新聞原紙の購入がある、部数の増大するにつれて、原紙の消費は増加するに至り、経費も自ら膨脹する、我邦に於て新聞原紙即ち巻取紙は、王子、富士、四日市等の各製紙會社から各新聞社に供給して居る、報知新聞社は一時外國紙を輸入して使用して居たが、今では大阪朝日東京朝日と同じく富士製紙會社から購入するやうになつた、高速度用一本の巻取紙二十連巻は夕刊二萬枚を作り得、その目方は約百八貫目の重さのものである。マリノニー機械用巻取紙は十三連巻であつて夕刊一萬三千枚を作り、目方

六十五貫目になる、一連は四頁新聞一千枚の量を云ふて居る、時事新報の使用の巻取紙を、部數に應じて延長するならば一日分にて東京驛から下ノ關に達し三十五日分にて世界を一周すると言はれて居る。とにかく新聞原紙の消費量は決して減退することなくて、新聞社の繁榮と共に膨脹するものである、『紐育タイムス』は先年加奈太グラランドメアのローレンタイトイド會社から、一個年四萬噸、向ふ五ヶ年の供給契約を結んだ、タイムスの専務取締役のジョージ、マクアネニーは次の如く語つて居る。

米國の新聞社は益々新聞原紙の必要を感じて居る、とにかく米國の産業界が活躍し、各方面の廣告が増加するので、勢ひ新聞紙の紙面の増大を促さねばならない、新聞經營は是非この要求に副はねばならぬ、新聞社の利益の爲めではなく、新聞紙に廣告して、生産品を賣る人の爲めなのである、新聞廣告によつて金を得る人の爲めなのである。然るに新聞紙の不足の爲めに

彼等の需要に十分に應せられないのが残念であつて、現に私を訪ねて來る人の中に、二頁に亙る廣告を契約したいと申込むものもあれど遺憾ながらお断りして居る、一頁大の契約ならば當分の中二回以上をお断りする有様である。

この言に徴しても如何に米國の廣告界の盛大なるに反し、新聞原紙の供給に苦しんで居るかゞ想像される。かくて米國には早くからパルプ原料の調査の聲が高く、千九百十九年十二月上院に於て上院議員ポインデキスターの調査提議となり、下院の委員會は、米國に於て發行する大小の新聞紙は、日々任意に一割の消費節約を行ふこととし、若し之に反するもの多しならば國法を以て制限しやうとするの論さへ起るに至つた、新聞原紙及びパルプの供給問題は實に米國のみでなく世界共通の重大な問題なのである。

新聞社の兼營として製紙會社の經營は、各國に於て餘り多く行はれてない。

それは新聞社と製紙會社が好意の特約を結んで居るから、自ら新聞經營者が製紙事業の方へ手を伸ばす必要を感ずるに至つてない、然らば兼營し得ないものかといふに、新聞社と製紙業とは、最も密接な關係があつて、企業性質から見て、兩者共に有利に經營し得られる、佛國に於て『ブテイ・パリシアン』の經營者エム・ダクイーがセイヌ製紙會社を兼營して非常な利益を擧げて居るのはその一例である。新聞經營者が新聞原紙供給の將來をよく洞察して製紙事業の研究を怠らぬことは、極めて肝要なことであらうと信ずる。

三 機械の威力

現代新聞紙の製作に際し、機械的方面は瞬時も休止することが出來ない。迅速を生命としながら、縮切時間の制限を受ける以上、工場 of 能率と機械の威力に頼らねばならない。我邦の新聞紙は、國字の複雑によつて、どの位進歩を阻

害せられて居るか、測り知るを得ないのである、特に印刷方面に於て國字の複雑多種なことは、著しく機械力の應用を鈍らしめたのであつたが、近年邦文モノタイプの工夫によつて、多少なり機械能率を擧げ得るやうになつたのは幸である、然し歐米の新聞社工務部が、既にタイプ、セツチング機の恩恵に浴して植字工の手を殆ど省きつゝあるのに拘はらず、我邦にては文選、植字、解版は全くハンド、ウヲークによつて爲され、タイプセツチング機が最大の仕事を、最小の場面に於て最大の速度によつて完了されるに反し、我新聞社が植字室の爲めに、甚だ廣い面積と、然も最小の仕事を、遅々たる速度にて行はるゝなど誠に心細い情態である。我邦に於て新聞社内の編輯局と工務部の仕事の上での争ひは、一に植字文選の能率上の關係から起つて來る、乃ち餘り機械の力の及ばない所に缺陷が生じて居る、かくて邦文モノタイプが工夫されて、活字の鑄造と植字とを兼ねる爲めに一人の作業員にて、文選、植字、解版まで行はるゝ、

ことになつた。而して手工法による作業工程一時間餘をかゝるものを、僅か二十五六分にて爲し得らるゝことが明になつたが、未だ完全にこの機械に頼つて手工法を排除するまでに至つてない、されば今日の最善策としてはこの三作業工程に熟練せる職員の充實を待つて、能率の増進を期するといふ外にないのである。

植字を終つて大組され、活字が紙型にとられて、鉛版を造り、その仕上げが終つて機械部に移される。最小の勞力を以て、最大の紙數を高速力にて印刷することゝなる、新聞印刷機械としては、Duplex Flatbed Press、Duplex Tubular Plate Press、Hoe、Marinoni、Doss、Waterscot等が普通に知られて居る。その中「ホー」と「マリノニ」は最も早く我邦の新聞社にて輸入使用せられて居た。米國新聞界でも一時「ホー」の全盛期があつた、「ホー」會社も年々に新式の機械の製作を爲して居るものゝ、今では「シカゴ・トリユービュン」や英、獨、佛の多

くの新聞社に「ゴス」の使用が甚だ増加した、「ニューヨーク・ウヲード」「デトロイト・ニュース」などは「ウォーター・スコット」を用ひて居る、機械選定には益々高速度の要求が起きて来て居ると同時に、機械の堅牢と耐久力に主眼を置くやうになり、輪轉機製造會社もこの點に新工夫を競うやうになつた。

我邦に於て高速度輪轉機使用の最初のもは、大阪毎日新聞社であつて、大正十四年に「ホー」會社から最新の型を輸入して用ひ、印刷能力の増大を圖つた、然るに大阪毎日新聞の「ホー」に對抗し、寧ろ之に優越せる獨逸製超高速度輪轉機は、時事新報社によつて輸入せられたのである、時事新報社は、大正十一年十二月に獨逸フラケンタル・アルバート會社に註文したもので、大正十四年六月頃から、組立了つて運轉の開始をした、超高速度輪轉機の全長は約三十九尺餘、幅約十七尺八寸、高さ約十四尺三寸、總重量六十五噸であつて如何なる高速度の運轉によつても微動だもしない、實に堂々たる偉軀である。その

構造は四個の獨立した倍版巻取輪轉機を立體的に連結したものであるから、必要に應じて個々の部分を單獨運轉を行へる、之等は悉く一ヶ所のスイッチ、ボタンによつて自由輕妙に運轉し得る、動力は二十五馬力づゝの主電動力機四個と二馬力づゝの徐行モーター四個が使用され、速度の緩急なども自在である、若し運轉中に巻取紙が裂斷する場合は自動的に運轉を中止してしまふやうになつてゐる、アルバート超高速度輪轉機は四ユニットで最高印刷能力一時間に三十二萬枚、六頁と八頁ならば十六萬部、十、十二、十四頁ならば八萬部、十六、十八、二十、二十二、二十四、二十六、二十八、三十、三十二の各頁ならば一時間四萬部を製作する、巻取紙二十連巻一本重量百八貫のものが、十四本も懸置さるゝのを見て、何人もその怪異なる大装置に驚くであらう。印刷用インクは貯藏タンクからポンプによつて自動的に調節供給される、而して總てのシリンダーはリングオイリングに依つて、自動的に給油さるゝやうに装置してあり、

飽までも人力を節して、従事員の便宜本位になり、構造は非常に堅牢であること云ふまでもない、時事新報社では超高速度機に相對し、鉛版機、仕上機等についても獨特の工夫をなして、時間の節約を行ふことに努めて居る、時事新報社の獨逸機輸入に刺戟され報知新聞社でもアルバート機を購入することになつたといはれてゐる、要するに我が新聞紙界は紙数の増大と共に機械力の競争といふやうになつた。

佛國の新聞紙は普通四頁しか發行しない爲めに「マリノニ」機は、ユニット・システムを用ふる必要がなかつた、我邦でも最初「マリノニ」機を輸入したが今日では頁数の増加と部数の増大に應ずる爲めユニット・システムを用ふるやうになつた、ユニット・システムとは、一ユニットの刷出高が一時間四頁新聞八萬枚であつて、四臺をユニットせしめて印刷能力を一時間三十二萬枚の製出力となる、この計算から言へば一時間三十二萬枚であるが、實際は經濟速力と

して二十五萬の速度を普通として居る。

新聞社の工場は、幾多の最新科學の應用せられて居るに拘はらず、我邦では未だに多大の勞働力と、著しい浪費とが往々に行はれ易い、そこで工場管理者は能率増進の工夫と經費の節約とが當面の問題になる、ワシントン大學のビーチ教授はこの方面の經費整理と能率向上の法として「コスト・システム」(Cost system)を適用すべしと言ふて居る、彼は「地方の小新聞社でこのシステムを用ふるならば、不經濟な従事員を雇ふ必要はない、而して職工の能率によつて、正當な賃銀の計算の基礎を知ることが出来る」と言ふて居る、同教授はウイスコンシン大學のエルウエル教授のコストシステム表を参考に擧げてゐるが掲載すれば次の如くである。

一、原料費 "Cost of Materials"

(イ)積荷明細書 (ロ)貨物運賃 (ハ)荷車賃 (ニ)人足賃。

三、機械の威力

二、生産費 “Cost of Production”

(1) 直接労費 “Direct Labor”

(イ) 植字室 (ロ) 機械室 (ハ) 製本室 (ニ) 工場に附屬する各室諸費

(2) 一般経費 “General Expense”

(A) 各部直接経費

(イ) 地代 (ロ) 暖房装置費 (ハ) 電燈料 (ニ) 動力費 (ホ) 修繕費 (ヘ) 備品の消耗 (ト) 各種税 (チ) 保険料 (リ) 間接原料又は工場用品 (ヌ) 監督及間接労費 (ル) 投資

(B) 其他

(イ) 工場経費 (特定の部に屬せずに幾多の部に關係する全経費) (ロ) 販賣に關する経費 (即ち販賣員俸給、販賣員コミッション、販賣員の要せる雜費、割引販賣、廣告代、運賃發送費) (ハ) 庶務経費 (一般俸

給、社員俸給、郵税、寄贈品費、電信電話、通信費、俱樂部費、雜誌購讀料金、投資、備品の消耗、雜費。)

エルウエル教授のコスト・システムは新聞社の印刷部に以上のやうなコスト・レコードを作らせるやうにしてあるばかりでなく、一般の印刷業にも利用出来るやうになつて居る、コスト・システムは營業局長なり、工場の管理者が夫々獨自の工夫を凝らして、コストの記録を作り、分類すればするほどに興味あるコスト表が出来て一局部のコストを知つて、全體の製作コストの算出基礎となり工場に組織的マネージメントが出来るのである、前に掲げたエルウエル教授のコストシステムの表は、決して完全のものでないが、單に參考までにかゝげたのである、要するに新聞社の工務部は機械の威力に俟つこと勿論であるが、能率増進と相俟つて浪費の節約の必要は言ふまでもない。能率を上げると言ふのは、時間、勞力、原料を無駄に使はずに、實際的效果を發揮することを意味す

* Seneca C. Beach. How to Make the Printing

るものであつて、新聞社の工場管理は、最も注意深く研究すべきものであると信じて疑はぬ。

参考書

Don C. Seitz Training for the Newspaper Trade

Nathern. How to make Money in Printing Business

Hoover. Waste in Industry

四 新聞社の労働問題

新聞紙は幾多の労働の結果から製作され、販賣されるものであつて、資本のみによつて存立するものではない、さればとて労働力によつてのみ現代新聞紙が製産販賣されるものでもない、こゝに於て新聞紙にも資本と労働との衝突を見るやうになり、所謂労働問題が起きたのである。

新聞社の労働争議は、先づ工場から起きた、新聞社の印刷従業員は、文字を取扱ふ職業だけに他の職工階級よりも進歩した知識の所有者が多い、それに従来如何なる工場も非衛生的であるが、就中新聞社の工場は不健康なものであつて、職工にとつては一切の労働條件が不利益であつた、長時間労働によつて然も賃銀の低廉は、彼等にとつて申分のない最悪な状態である。米國に於ては千八百九十年に『ロシアンゼルス・タイムス』の印刷職工が同盟罷業をなし、千八百九十九年に『紐育サン』の職工が同盟罷業を断行して、労働時間の制限及賃銀の増加を要求した、先年市俄古の新聞印刷職工の罷業があり、巴里にも印刷職工の罷業が起つた、巴里の罷業は戦時中佛國の新聞社が原紙の輸入杜絶したので新聞原紙の暴騰となつたので、定價の値上げが、新聞社の増収となるものと考へた職工側は(一)新聞紙定價引下げ(二)賃銀増加を要求した、當時『Intransigent』の重役エム・パールビイは罷業者の代表を引見して、

佛國は原紙を得るのに苦しんでゐる、佛國には獨逸に賣る一噸もない、米國自身が缺乏して輸出しない、スカンヂナビヤの紙價は益々上るばかりである、紙の不足が、定價の引上となつたのである。

と諄々説いて、識工側の要求は曖昧になつてしまつた、巴里の新聞紙經營者はその後新聞社の營業狀態、新聞紙の需給關係等を一々職工に知らしめることにして、社に對する誤解を除くことにしたのである。

米國には印刷職工の罷業の頻々とあるに鑑み、千八百八十六年十一月デトロイトに於て全米各地の新聞發行經營者を以て組織する「米國新聞發行者協會」が開催され、千八百八十七年二月ロチェスターに於て同協會の大會を開いて、新聞社員の給與、印刷職工に關する勞働問題をも審議し、而して自發的に改善を加へることになつた、一方新聞社の印刷職工は銘々組合に加入して、勞働組合によつて被傭者に對する合理的給與、勞働時間の制限等の要求並びに勞働者

としての地位の保證を求めた、而して『米國新聞發行者協會』と各種の勞働組合の首領とは、種々協議の結果『社會に於ける新聞紙の使命』に鑑みて『強制仲裁協定』"Compulsory Arbitration Agreements"を作成し、今日では同協定を理想的に運用して、新聞社の職工は、他の印刷職工の罷業する場合に於ても、同情罷業又は短期間の豫告だけで罷業を行はぬやうになつたのである。米國に於ては印刷職工の罷業が早くからあつたけれど、新聞記者には罷業を行つた例を聞かない、新聞記者は報道主義の發達が早かつた爲めにか、比較的優遇され、今日に於ては新聞記者の物質的優遇は英米兩國が第一位であらう、英國の新聞記者は曾て倫敦の一新聞紙がホイグからトリー援助の政策をとるに經營者が變節した時に、論說記者は悉く連袂辭職したといふ一事を最も誇つて居る、則ち彼等は收入の爲めに節を賣らなかつたのであると言ふて居る。米國では『良い記者』の爭奪が自由である、新聞經營者は若い良い記者でもあれば萬金を投じ

て雇入れるといふ有様であつて、英國とは聊か趣を異にしてゐる、米國の日刊新聞紙で普通の新聞記者は一年に最低二千五百弗から八千弗であり、論説記者は一萬弗から一萬五千弗、編輯長は七千五百弗から一萬二千弗の程度である、營業部長又は廣告部長は年俸三萬弗であつて最高十萬弗のものもある。

纏つて我邦に於ける新聞社の労働問題は、極めて複雑なものであつて(一)工務部に屬する爭議(二)販賣部に屬する労働社會問題(三)新聞記者の増俸問題とが研究すべき項目として残されてゐる、歐洲大戰中に一時的の一般好況は、新聞紙經營にも反映し、各新聞社の廣告収入は増加し、發行部數の膨脹となり新聞社の収益は著しく増大した。而して一方生活費は驚くべき奔騰をなして、米價の如き『殺人相場』といふ言葉さへ生ずるに至つた、然るに各種の營利會社は従業員に増俸或は配當を以て、収益の分配をなしたのに、新聞社は進歩的インスチテューションであるのに拘はらず、収益の多くを經營者自身の所得となすと言ふ風で、利益分配について自覺することなく、新聞従業員は舊態依然として薄遇に泣かざるを得なかつた。工務部の従業員の最低賃銀に一ヶ月十四圓のものがあり、編輯局社會部の新聞記者には十七圓のものがあつて、如何にして物價の十三割以上に暴騰した場合に抗して生活し得られるか、寧ろ奇蹟なほどであつた。この時代から一般營利會社と同じやうに新聞社も經營者階級と被傭者階級との關係を資本家と労働者の對立といふやうに考へ、『温情主義』なる語は一笑に附せらるゝ状態となり、擷取階級の誅求には只だ『同盟罷業』の武器を以て闘はねばならぬといふ思想を強むるやうになつた、大正八年六月中旬、東京の十三新聞社の職工の首腦部は會合して先づ(一)新聞社従業員の慰安(二)生活の確保(三)日用品の購買等に關する目的を達成する爲めに革進黨を設立し、横山勝太郎を會長に推した、是れが我邦の最初の新聞社印刷職工の労働組合なのである、偶々朝日新聞社は株式會社に組織變更を行ふに際し職

なすと言ふ風で、利益分配について自覺することなく、新聞従業員は舊態依然として薄遇に泣かざるを得なかつた。工務部の従業員の最低賃銀に一ヶ月十四圓のものがあり、編輯局社會部の新聞記者には十七圓のものがあつて、如何にして物價の十三割以上に暴騰した場合に抗して生活し得られるか、寧ろ奇蹟なほどであつた。この時代から一般營利會社と同じやうに新聞社も經營者階級と被傭者階級との關係を資本家と労働者の對立といふやうに考へ、『温情主義』なる語は一笑に附せらるゝ状態となり、擷取階級の誅求には只だ『同盟罷業』の武器を以て闘はねばならぬといふ思想を強むるやうになつた、大正八年六月中旬、東京の十三新聞社の職工の首腦部は會合して先づ(一)新聞社従業員の慰安(二)生活の確保(三)日用品の購買等に關する目的を達成する爲めに革進黨を設立し、横山勝太郎を會長に推した、是れが我邦の最初の新聞社印刷職工の労働組合なのである、偶々朝日新聞社は株式會社に組織變更を行ふに際し職

工の給料の改正を爲さんとし、職工側と協議して最低五十圓見當にて妥協決定しやうとするのを聞いた、東京日々の職工は同社に（一）最低八割増（二）八時間労働（三）月四回の休暇案を提出して一時拒絶されたが、朝日同様の最低給料額にて結局妥協することゝなつた、朝日、日々の職工優遇の端の開かれたのを知つた、他の新聞社の職工は黙すべくもなく、東京の殆ど全新聞社の職工は経営當局に對して夫々優遇實施を要求した、革新會も全會一致して（一）八時間労働二部制（二）生活の安定保障（三）最低賃銀七十圓等を可決し、全新聞社に通告した、然るに新聞社中に強硬に反對するものがあるので遂に七月三十一日午後一時から同盟罷業決行の段取になつた、此時新聞社の經營者側は交詢社に會合して對抗することゝなり左の如き決議をなした。

聯盟新聞社は大正八年八月一日以後全部休刊することを協約す、休刊中は號外其他如何なる名義を以てするも新聞を發行又は販賣することを得ず。

同盟罷業を爲したる職工に對しては當該新聞社に於て直に之を解雇することを約諾す、本契約に違反したる新聞社は違約金十萬圓を聯盟に支拂ひ且つ印刷機械一切を封印せられ發行停止の強制執行を受くるも何等異議なきことを誓約す。

この新聞聯盟に加入せるもの十六社であつて、革新會を否認し、罷業職工のロックアウトをしたのである。罷業休刊の状態は、四日間繼續した、東京全市は全くの暗黒となり、電氣瓦斯の消へ失せたと同様になつた。この時に新聞聯盟に加入しない『東京夕刊新聞』なるものは一枚一錢のものが二十五錢となり『大阪朝日新聞』及び『大阪毎日新聞』が一枚二圓に賣れたといふ、前代未聞の奇談が生れるやうになつた、新聞紙のない帝都、不安な東京市に對し、革進會側の横山勝太郎が岡警視總監に調停を依頼することゝなつて、岡總監の斡旋で新聞聯盟は次の四項を協定し回答した。

一、最低三十五圓、最高六十五圓とすること。

一、夜勤賃金として六時より九時迄六十錢同十二時迄一圓、十二時以後卅分毎に十錢増しのこと。

一、労働時間は各社々内の協定に依ること。

一、罷免職工の復舊は各社の任意たること。

未だ革進會は労働組合として日淺く、到底同盟罷業して持久戦をすること能はざる爲め、職工間には一日も早く復社したいといふものも出来て來たり、地方印刷職工のストライキ、ブリーカーも現はれて來るの恐れもあり、職工側は結局屈し、日々、國民、時事、報知等は職工中の過激分子の復社を容認しないことにし、その他全部復職させて解決し、漸く新聞紙の發行を見るやうになつた、革進會は全然失敗して遂に解散した、革新會は亡びたが、後に至つて「新聞印刷工聯合組合」が出現し、極めて有力なる團體を組織することとなり、穩

健派は常に「關東總同盟」との連絡をとりつゝあるも、急進派は「全國印刷工聯合會」と脈絡相通じ、労働條件の革新運動を續けるやう企圖して居る、今印刷職工組合中の比較的急進團體なる全國印刷工聯合會の綱領を掲ぐれば次の如し。

我全國印刷工聯合會は資本家階級と労働者階級との間には共通の利害なるものゝ絶對に存せず、唯だ兩者の間には絶えざる利害の衝突あるのみなるを自覺し、此意識の下に全國の印刷工業労働者を階級的に團結し、有力なる無産階級運動の一部たらんと欲するものである。

我々はこの主張に基き團結を成す事に依つて、先づ個々の資本家に突喊し部分部分の改革を獲得すると共に現在の社會的不正が資本主義的組織即ち勞力を商品として取扱ふ制度に基礎を置くものなるが故に、これに代はるべき新らしき協働的社會生活への道を拓かんとするものである。

更に我が全國印刷工聯合會は、勞働者階級の力は其の經濟的團結であり我々の目的は唯だその經濟的行動によつてのみ達成さるべきを確信する。そして勞働者の經濟的團結が、政治的諸黨派と關係することは單に内部的紛争を惹起するのみで、其運動上有害無益なるが故に我が全國印刷工聯合會は、一切の政治的諸黨派と無提携無關係を標榜する。

大正八年の新聞社印刷工の同盟罷業は、かくの如くに實質的に破られたが、この罷業以來新聞社の印刷職工は、新聞經營者側を資本家として著しく敵視する事となり、工場部従業員を温情主義又は懷柔主義などにて待遇しやうとしても到底彼等の思想が許さなくなつた、新聞工場部の罷業は、大正八年以來中絶したが、大正十三年六月十八日に突然に東京朝日新聞社及び國民新聞社に起るに至つた、兩社の工場部員の一部は、日本勞働總同盟及び關東印刷勞働組合の應援を得て、夫々兩社の責任者に對し、待遇向上の要求を提起した、國民新聞社

工場部員の主なる要求は次の如し。

- 一、八時間二部制の實行及び最低賃金を七十五圓とすること。
- 一、時間増一時間に付五十錢とすること。
- 一、父母病氣又は死亡の際缺勤給料全額を支給すること。
- 一、軍事應召中の給料を支給すること。
- 一、六ヶ月以上在社のもの退社金三ヶ月を支給し以後六ヶ月勤績毎に一ヶ月分を増すこと。
- 一、衛生設備其他優遇の件。

附帶要求事項

- 一、争議中の日給支給のこと。
- 一、如何なる結果に至るとも犠牲者を出さざること。

尙ほ朝日新聞社の機械工の要求條件は左の如し。

一、待遇改善の事。

イ 二重賃金制度の撤廢の件。

理由 現在の給料制度即ち本給と手当（夜勤）を合併し以て一重賃金制度となす事。

ロ 三割増給の事。

理由 (イ)の項目に對してなす事。

ハ 一の(イ)(ロ)の決定の最低の勞銀を最低賃金となす事。

二、殘業に對する手当改正の件。

理由 定時(午後三時半)後の殘業に對し三十分毎に五十錢を各人平等に附與する事。

三、機械に對し危險場所及び場内の衛生設備して一般の豫防方法を設ける事。其他工場法十五條を嚴格に實行する事。

四、國家義務を履行せんとするもの又は祖父母父母妻子の命日等に公休を附與する事。

理由 本條の公休の爲め殘業したるものは當社より殘業手当を附與する事。

五、皆勤手当附與の件。

理由 本條は毎月手当十圓を各人平等に附與する事。

六、機械掃除夫三名以上雇入れる事。

七、入社後解雇するとき左記の通りに依り手当を支給する事。

一 六ヶ月以内二ヶ月分。

二 六ヶ月以上一ヶ年迄三ヶ月分。

三 一ヶ年以上にして六ヶ月内を増す毎に一ヶ月分を追加する事。

附帶條件

四 新聞社の勞働問題

- 一、今回の要求に對し争議に移りし時は、争議中の日給を支給する事。
- 二、今回争議に關して直接間接の理由に依りて犠牲者を出さざる事。

大正八年の罷業と大正十三年の争議を對比するに、前者は待遇改善の要求なども簡單であつたが、後者に至つて更に進んだ具體的な要求となり、プロフィット・シェアリング利潤分配の思想が多分に含まれるやうになつた、彼等が新聞經營者を目してその檄文中に「文明と文化と公正を標榜して立つ新聞社に向つて、彼等が如何に非人道的偽善的人道主義者であり、大詐欺師であるかを暴露する」と述ぶるなど極めて激越な調子を以て攻撃して居る。國民新聞社では種々の経緯があつたが、結局七月を期し適當の賃金増加を行ふ旨を工務部長が聲明したので、職工側も無條件にて一時撤回することになつた、朝日新聞社にては直に對案を示して職工側と協議したが、職工側の満足を得ず、大正十三年六月二十一日に職工側五十餘名は遂に連袂退社を執行したので、朝日新聞は印刷開始の時間として一時憂へられ

たのであつた、然るにかゝる場合に到るの用意として大阪本社から招致してあつた十餘名の機械工を工場に配置して、約一時間の遅延で事なきを得た、而して五十餘名を解雇し、暴力を以て復讐せんとする職工中、工場に闖入せんとするものは警備した私服巡査によつて檢束するの手段に出でた、朝日新聞社工場責任者のその争議に際し採つた態度は極めて同情的の中にも峻嚴なものがあ
り、新聞紙休刊の憂目を見ずに済した應急の措置は、大に賞讃すべきものであ
ると稱せられて居る、東京朝日の機械工の争議によつて、大阪朝日、東京朝日
兩社の職工は、悉く待遇の改善が行はれたので、自ら東京日々に影響し、東京
日々の文選工七十七名及び見習十七名も待遇改善の要求を工場長に提起したそ
の要項は左の如し。

- 一、給與を他社に倣つて改善すること。
- 二、時間残り(午後五時より六時迄地方版のため)を廢止され度きこと。

三、残業料(現在午後九時迄九十錢支給)を値上げされ度きこと。

四、缺勤者の給與割戻し廢止のこと。

五、脱衣所を完備すること。

六、文選場を獨立せしめ委員制度を採用して文選工場管理を実施すること。

この要求によつて、工場長は文選工全部を召集して一々要求事項について社の意嚮を説明したので、大體に於て文選工を諒解せしめたが、裏面にて種々煽動する虞れあるもの五名は、斷乎として解雇してしまつた、要するに職工側の爭議提起は、事情に於て止むを得ないと認めらるゝものもあるけれど、往々にして(一)外部の煽動に陥り易いし(二)社の營業狀態の無知から過當の要求をなすものがあるし(三)暴力に訴へて要求を貫徹しやうとする惡弊が生ずるに至つた。之等は工場従業員の勞働上の自覺を促すと同時に、新聞經營者からも工場そのもの、改良、管理の改善、待遇の向上に對し十分の留意をなすべき

こと、思ふ。尙ほこゝに一言附記することは各社が實行難に迷ひつゝ、ある二部制八時間勞働を、大正十三年春以來實現したのは、たゞ時事新報あるのみで、是れは新聞勞働界に於ける八時間勞働制の先驅であり、時事新報の工場管理に誇る點であると言はれて居る、大體に於て工場部員の待遇は、著しく改善され活版勤務者は月額八九十圓から百十圓の程度の收入を得るに至つた、大新聞社に於ては社員と同額の退職手當制を實施し、職工中兵役又は出産による休社の場合には有給賜暇の制も行はるゝやうになり、社内に於ける相互扶助の實を擧げる爲めに共濟會を設け、扶助規程によつて、従業員の疾病罹災等の救助方法を講ずることになつた、勿論職工待遇に關し研究すべきもの頗る多いが、最近に於ける職工の現狀を昔日に比すれば、蓋し隔世の觀がある。

大正八年頃生活難に脅威されたのは敢て職工階級ばかりでない、各新聞社の記者も生活費の狂騰に苦しんだのである。彼等は個々の社に於て種々の手段に

よつて責任者に増俸を迫つた。東京日々に於ては全社の記者大會を開いて増俸運動を斷行するやうになつたのに刺戟されて、他の各社の記者も各部の増俸要求となり、更に各部提携した増俸運動を開始した。從來新聞社に於ける各人の月給は絶対秘密であつて、各部の部長さへも知らなかつた。偶々當時或社の社會部の記者全員が或場所に會合して、何れも俸給袋を開いて突き合したところが最低十七圓のものがあり、十七八年勤続者で二十五圓といふ人があり三十圓は良い方であつたので一同啞然としたといふ喜劇でなくて全くの悲劇が起きたと云はれて居る、職工の場合のやうな過激不穩の行動には進んで行ふものもなかつたが、新聞社は次第に記者側の要求を容れて増俸を行ふやうになつた。とにかく新聞記者の職業的精神は、職工の労働觀念と自ら異なるものがあり、新聞記者として一新聞社に十年、二十年、三十年と勤続するものは、青年期、壯年期に於ける野心の燃ゆるまゝに活躍し得る時を、新聞記者の職業的精神に生

きて、若い血をその社の爲めに犠牲としてしまふのであるから、經營者はこの點を考慮して老ひたる記者の爲めにその功勞の大小に應じて、大に酬ゆる所がなくてはならぬ、『紐育ウオード』の社長プツァーが勤続二十五年以上のものにポストンに於ける社有地に老後を安らかに送るべき家屋を建て、土地と家と恩給とを與へて生活を保證する如きは、是も美しい模範と言はねばならない、次に今日の新聞社は大學卒業者の入社によつて、他の營利會社と略同額の最低俸給が定まるやうになつたが、新聞社の収益に従つて利益分配の方法を講じて記者優遇の途を立てる必要がある、之等は新聞記者が醜き行爲を以て要請するものでなく、寧ろ新聞經營者の自覺によつて解決すべきものであると信する。

新聞社は多くの勞働力から築かれて居る。新聞紙が製作されて最後に讀者の手に入るのは、各販賣店の使役する配達人の手を煩はさねばならない。配達人は専門的に従事するものは少く、その大多數は苦學して勉強する青年である、

新聞社の自働車が太陽の出でざるに、市内と近郊の販賣店まで新聞紙を配送する、配達人は各自の受持區域に新聞紙を抱いて馳る、彼等の多數は學校授業開始に間に合ふやうに務める、之を讀者側から見れば、出勤する人は出勤前に新聞紙へ一通り目をとうすことが出來やう、配達夫の早く配達すること、讀者の『早く』精確に配達されること、利害が一致するのである。大新聞社にては配達夫を二千名以上も有つてゐる、而して新聞紙が発行される限り、配達夫には日曜も祭日の休みもなく、朝夕刊の配達労働に従事しなければならぬ、こゝに配達夫に關する休養問題が起きた、大阪市の兩新聞社が一步早く日曜夕刊の廢止を實現したのに刺戟されて、大正十三年六月東京の販賣組合代表者等は各社を歴訪して賣捌店百三十名連署の左記歎願書を提出した。

日曜日夕刊に限り廢止の儀に付歎願

私共儀積年業務上の體驗と従業員の現状とに鑑み各新聞紙發行本社に於か

せられて一齊に日曜日夕刊に限り廢止被成下候様願上度茲に謹んで愚衷開陳仕候。

従業員の大多數は苦學生或は之に類似の境遇者より成り營々として日々の業務に忙殺さる、傍學習に餘念なく若くは他に副業を求めて極めて眞面目に且つ堅實性を帯びたるものに有之候得共一年三百六十五日を通じ一日の休養日だに無之而かも物質上の待遇は極めて稀薄にして今日社會四圍の勞作者に比し權衡上の徑庭は著しく洵に同情に堪へざる次第に御座候去りとて新聞紙本來の使命を顧みれば餘儀なき儀とも存じ曾ては屢々一般従業員休養問題に關し攻究を累ねたる儀も有之候處良案も無之切めては日曜日夕刊だけの廢止を各社に願出で御採用の榮を忝うせば彼等に對する多大の慰安となり向上の道も開け可申且つは現下非常に従業員應募難に苦しみ居候點も緩和され可申斯くて茲に生新の氣膨沛として漲り出で配達能率の増進

と敏活を加へ可申と奉存候何卒特別の御詮考を垂れられ願意御採納被下度
同業連署の上奉願候也

夕刊廢止については表面配達人等の勞働休養問題と稱するけれど、裏面には種々販賣政策上の魂膽もあつたと傳へられて居る、然しこゝに於て販賣政策の内情を述べるを差控へて、結局賣捌店の運動奏功して、時事、東朝、東日、報知、國民、萬朝、中央、やまとの八社は一致賛成して大正十三年七月第一日曜日夕刊から廢止することに決定した。

夕刊廢止に次いで一府一道十七縣の新聞取次組合は、大正十四年五月の總會に於て年四回の公休日設定の決議をなし、東京の各社に次の稟議を提出した。

新聞公休日設定に關する稟議

人道問題より見て能率増進の上より見て従業員に慰安の道を與ふることは現代洋の東西を通じての實現となれり我が新聞業の本領使命に顧みれば自

ら他の事業と趣を異にすると雖も叙上二個の論據に於ては正に其軌を一に
すと信せらるゝを以て茲に彼此參酌して新聞紙公休日設定の稟議を各本社
に提出すべく去五月二十六日組合第一回總會に於て左の決議を爲したり冀
くば貴社に於かせられても特別の御詮議を垂れ右御採納あらんことを

決議

本組合は従業員慰安の意味に於て四方拜、春秋皇靈祭各翌日の三日間新聞
紙の休刊を各本社に對し要求す右決議す。

附帶希望として十二月三十一日休刊の御實行願上候。

大阪に於ては大阪毎日新聞社及大阪朝日新聞社の協定によつて、大正十四年
春に祭日休刊を申合せ、春季皇靈祭から愈々實行するに至つたことによつて、
東京の新聞取次組合は、益々實現の運動を盛にして、各新聞社の販賣部長に迫
つた、大正十四年十一月十四日、各社販賣部長の社交機關たる『和樂會』は京

橋萬安に會合して、新聞休日問題を議題としたが、祭日の休刊には異議もあり休刊日を一日間とするか二日間とするかにつき賛否を求めたところ、年末年始に際し一日以上の休刊を行ふことに決し、大晦日の休刊は各社の自由とし、一月二日の休刊に關しては賛否を保留した社のあつた爲め延期になり、同月二十日に至つて賛否を留保した社からの回答があつて左の覺書を作成した。

一月二日を以て新聞休刊とすることを協定す。

かくて和樂會の幹事から一府十七縣新聞取次業組合幹事長に對し、右の覺書を送致して、こゝに新聞休日問題も一段落となり、配達人は一月二日に休養することが出来るやうになつた、是れは一月一日に編輯局、工場部の休養となつて、斷へ間なく轟々と響く新聞社の輪轉機も一月一日には、全く靜止の姿を見ることが出来るやうになつたのである。尙ほ之より先き即ち大正十三年七月よりは、日曜日の夕刊休刊によつても配達人は、日曜日の夜の配達勤務から救は

るゝことになつたのである。日曜夕刊休刊の各社申合せ通知書は左の如し。

御通知

拜啓、愈々御隆昌大慶に存じます、借今般左記各社協定の上來七月六日より日曜日に限り夕刊を休刊することとなり、それに付隨して、

一、日曜日に號外を發行する場合には呼賣のみに販賣し讀者に配達せざることを。

一、日曜日の夕刊を休刊するも之が爲めに原價値引等に關係を及ぼさしめざることを。

等を協約しました。

右によると日曜日に號外を發行しても、配達人の手によつて讀者には配達しないことになつた、現在新聞紙は『讀者奉仕』第一主義である、然し我邦には新聞配達といふ特殊のシステムが發達した、歐米には個々の家に配達する我邦

のやうなシステムは餘り少い、我邦では今更特殊な配達システムを全廢することが出来ないけれど、かゝるシステムを發達させたる新聞社は、配達に従事する勞力者に對し十分の同情と理解とを有たねばならない、こゝに於て新聞一日の休刊が實現し、日曜夕刊の休刊の實行と、日曜日號外の配達廢止は、どの位にこの下層勞力者の休養幸福になるか察するに難くないのである、新聞配達人の一部には、最近『新聞勞働聯盟』なるものを目論見て待遇改善を賣捌店主に要求するものもあるが、未だ有力な團體でなくして、對新聞社關係まで進展してない、然し遠からずこの種の勞働團體も發達すべき運命を有つて居るものと思ふ、かくて新聞社としては配達人問題に關しても眞面目な考究を遂げねばならぬ時に遭遇することがあらう、元來配達人には各新聞賣捌店を渡り歩く不良青年もあり又眞實に苦學を目的に従事しつゝあるものがある、されば新聞社は經費の許すならば第一に專賣店直屬の専門配達人を養成し、その補助として苦

學配達人を雇入るやうにする必要がある。何となれば配達人は新聞紙販賣擴張の前哨線であり、第一線に於て戰ふて居るものであるから、彼等には販賣上の熟練と誠實とを有たねばならぬ、『渡り歩き者』に委すといふのは危険であり、將來大に改善すべきものであらうと思ふ。一方苦學配達人の多數な場合には、新聞社内の下級勞働に服する給仕其他の青少年の教化とも併せ考慮して、新聞社直營の夜間中學校、夜間補習學校を設置することも一方策と言はねばならぬ、要するに新聞社行政に於て、勞働問題は今は一社内にとゞまらず各種の勞働團體との横の關係も複雑化したことなれば、新聞經營者は夙にこの點に留意し考究すべきもの決して尠しとしないのである。

第七章 新聞紙の製作

一 製作の方針

新聞紙の製作とは即ち編輯することを云ふのであつて、原稿、寫眞、挿畫等の整理統合を指すのである、新聞社で原稿を校閲し、原稿を製出する實務に當るものに、各部の部長があり、各部の責任者の校閲を経たものが總編輯又は整理部の手に移るやうになつて居る、新聞紙の製作に際し最も大切なのは、日々新聞紙を如何なる方針で製り上げるかといふことである。この點について大體英國式と米國式の二つに岐れて居る、英國式は硬式編輯法であつて、各記事又は讀物の配置が、各頁に殆ど決定的となつて、讀者が讀まんとする記事を、何時も同じ場所にて發見することが出来る、米國式は軟式編輯法であつて、そ

の日の重大記事が必ず第一頁に掲載されるといふ風になつてゐる、米國式でも經濟、財政に關するニュースは、或頁に一のセクションを定められる傾向になつて來て居る、英國のは記事が割據主義であり、米國のは印象主義である。兩者には夫々の長短を有ち、硬式編輯法によると讀者が自分の讀まうとする記事を必ず毎日同じ頁面で發見することが出来るけれど、軟式編輯法によると或時は第一頁にかゝげられると思ふと、或時は他の頁に同じやうな事件のニュースの報道が移されることになる。然し硬式編輯法は固定的な讀者を多數持つ新聞紙に非常な便宜な製作法であるけれど、夕刊新聞のやうに毎夕街路にて浮動的讀者に買はせて讀ませようとするのには不利益であつて、その日のニュースの或物を目立つやうに標題を附して第一頁にかゝげる方が有利なのである。

今日の我邦の新聞紙の多數は、第一面を告面とし、第二面を外國電報又は國內に於ける政治上のニュースを入れ、第三面に社説その他の讀物及び記事を

配列し第四面を経済、金融に關するニュースを掲載し、第七面に於て社會生活に於て最も重大なニュース其他のニュースが最も感覺的に配列されて居て、第二、三、四面などは全く別世界の觀をなして居る、仍ち同日の新聞紙に一面には硬式編輯法を用ひ、他面には軟式編輯法を採つて、我邦獨自の製作法が行はれて居る、この結果として新聞記者をも硬派記者と軟派記者を對立させるやうな變態な發達を遂げるやうにさせてしまつた。それ故に硬派記者には軟派記者のやうなニュース感覺を失ひ、軟派記者には硬派記者の有つやうな氣品と書方が出來ないやうにしてしまつたのである。誠に偏狹な記者の養成の方法をとるやうになつた。こゝに於て我邦の新聞紙製作の方針について硬軟何れにて進むかといふ問題が起きるに至つた、而して綜合編輯といふ問題が研究の題目となるやうになつた。元來我邦の新聞編輯者の中でも綜合編輯と云ふことに關し種々の解釋があるやうであるが、私の意見としては、英米兩式の特長を採用して

記事の統合、材料の精選をなして、アトラクティブな製作をなすのにあると思ふ、この方法によつて記事の重複を全く除去し得られる、綜合編輯を人殺しとか心中沙汰を最もセンサーショナルに取扱ふとのみ解したくない私の考として假令新聞紙製作に綜合編輯といふ方針を採るとしても朝刊新聞に於て、

- 一、新聞紙の品位を毀さぬやう。
- 二、實質の含んだ記事を多くすること。
- 三、記録的な記事をも豊富にすること。

等の特性を發揮せしめたい、夕刊新聞として、

- 一、讀者の興味を中心にする事。
- 二、記事の内容よりも印象を第一義とすること。
- 三、街路にて一枚でも多く賣ること。
- 四、家庭生活に關するもの又は演藝に關する廣告を主として收容すること。

等の方針を以て進むのが適當ではないかと信じて居る。然し新聞紙製作は理論でなくして實際の問題であり、編輯者の特殊な技倆に基くものであるから、結局は新聞社の編輯局長及び幹部が一定の方針を決定し、その基準に従つて編輯部員が最も巧緻に材料の配列をする外ないし、編輯部員に経験と有能な人物を網羅しなければならぬ、仍ち製作は編輯部員の頭の働きに基くものであるといふことになる。

編輯部員が朝刊なり夕刊なりを編輯するに、是非とも考慮しなければならぬのは、その新聞紙の讀者は、如何なるニュースに最も興味を感ずるであらうかといふことを判断しなければならぬ、而して最も興味あるニュースを、蒐集された多くのニュースの中から選擇して、是を最も注意されるやうな頁に持つて行き、そのニュースに對して注目されるやうな標題を附けて讀者を惹きつけねばならない、第二に活字大小の使用、活字の配列等の個々の注意から、各頁の

夫々の出來榮えに就いて深い注意を怠つてはならぬ、假りに綜合編輯法を採用して居るからとて、徒に活字の大きいのを並らべるのは、讀者をして不快の感を強めしめる而して各頁の調和を失して居ると讀者の嫌氣を催さしめ、その新聞紙への愛着性を減するに至る虞れがある、第三に編輯者はその新聞紙の讀者階級を最もよく知る必要がある、『時事』の讀者と『やまと』の讀者に著しい相違があるし、同じ新聞紙でも朝刊と夕刊とで多少讀者に變化を來して居る、即ち朝刊の呼賣よりも夕刊の方が賣れ方が多い、さすれば夕刊は一枚一枚を辻や停留場などで求めるので、自ら『賣る新聞紙』を製作しなければならぬ、夕刊の讀者は朝刊よりも固定的でなく浮動的である。こゝに編輯者の注意が拂はれる必要が起る、要するに綜合編輯の精神を以て朝刊の製作も出来るし、夕刊の製作も出来るが、朝刊と夕刊との製作方法は全く別種の新聞紙を製作する觀念で行ふても差支ないと思ふ、然し最近朝刊までも夕刊化の傾向が著しくなつて

来たやうであつて、是れも自ら進むべき道に向つて居るものと思ふ。

二 原稿の整理

外勤員の書いたもの、通信員の郵送したもの、外勤員から電話で送つたものを速記者が書き直したもの、通信社からの通信等の原稿は、各部長の校閲を経て編輯部員の手に移る。こゝまで来る間に、各部の責任者は大體に於て各原稿を校閲し、誤字を訂正したり、記事の書方をその新聞紙の型に入れたり、大見出し、小見出しまで書かれるのであるが、編輯部員は各部の責任者から提供された、即ち精選したる『種』を再び檢閲するの義務がある、編輯部員は『種』と言はれる原稿を、

一、更に内容的に見る、如何なる材料を用ひてあるか、その材料を如何なる方法で説明してあるか。

二、内容さへよければ採用するが、文章をよく校閲して訂正し、更に長短よろしきを得るやうに書き直す必要もある、多くの場合は原文より短くするのであつて、英語でポイル、ダウンと稱してゐる。

三、各部の責任者が一度原稿を添削するけれど、編輯部員は更に文法に基いて文字の使ひ方、文の脈絡等を見て添削するし、又その新聞紙の特色となつてゐる語法によつて添削する。

以上の仕事が終わつてから、各部の責任者の附した標題、側標題の原稿の内容と對比して適當であるかどうかを見る、(或新聞紙では各部の責任者によつて、標題、側標題を全く附けずに編輯部員の手に廻すものもある)更に紙面を製作してから、その體裁の爲めに標題を書き換へたり又は活字の大小の變更をなすこともある。

標題又は大見出し“Captions”又は“Headline”の書方は、今日の新聞紙製作に

於て、ニュースの内容と等しく重要なものとなつた、最初標題の目的は單にニュースの種類を示すといふに過ぎなかつたが、今は標題そのもので報道の力を補ふやうになつた、それ故に大見出しばかりで満足が出来なくなつて、『小見出し』“Sub-heading”を用ふる様になつた。即ち大見出しと小見出しとで、記事の重要要素を表現するやうになつたのである。標題の價値は第一に多忙な人が記事を一々讀まずとも標題だけで記事の概要を知ることが出来る便利があり、第二に標題が巧みな配列と最も適切な文字によつて表現されて居ると、最も強く讀者の好奇心をそゝり、興味を起さしめて、進んで記事を読むやうに誘導するものである。標題はニュースの結晶であるから、文字を明快直截にして、一見讀者を吸ひ込むやうでなければならぬ、矢張り編輯部員は標題をつけるにも獨創的な心得があつて欲しいし、陳腐のものよりも成るべく清新のものを工夫するやうにしなければ駄目である。標題をつける場合に、一つの標題の中に、同

一の語が二つ用ひられることは不快である故に、成るべく表現を異にする文字を使ふ必要がある、この標題をつけることについて最も注意を要するのは、活字の使用法であつて、如何に好い標題の文字を苦心した所で、活字の使ひ方が悪いと、折角の苦心も滅茶苦茶になつてしまうのである。それ故に編輯部員は活字についての充分の知識を備へ、その種類を巧みに紙面に現はさねばならぬ活字の種類に關する説明はこゝに略したい。それ故に新聞社では『見出しがつけられるやうになれば一人前になつたもの』と云はれるのである。叙上の手續を終つてから、編輯部員は今まで自分の檢閲した原稿とか寫真とか挿畫とかの配置をどこにするかを決めねばならない、先づA頁に如何なるものを收容し、B頁に如何なるものを配置し、C頁を如何なるものにて埋めるかと各頁に關する製作を考へ、各頁夫々の體裁をとゝのへ、そして各頁全體の調和整齊を考へる必要がある。各頁夫々の製作に對し必ず忘れてならないのは、(一)記事の輕